

令和元年度 第2回美濃地区教科用図書採択協議会議事録

- | | | |
|------|-------------------------|--------------|
| ・日 時 | 令和元年7月12日(金) | 9:30 ~ 15:55 |
| ・場 所 | 郡上市総合文化センター 2階 多目的ホール | |
| ・出席者 | 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会委員 事務局 | |

【司会】

ただいまから、令和元年度第2回岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を始めます。
はじめに、採択協議会会長 熊田 一泰がご挨拶申し上げます。

【会長】

郡上市教育委員会教育長の 熊田 一泰 でございます。
前回に続いて、本協議会議事が円滑に進行できるよう、よろしくお願いいたします。

【司会】

今年度は、小学校の教科用教科書について、採択替えの年になりますので、資料のタイムスケジュールの順に協議をします。

本日まで、この協議会により委嘱した研究員により、全ての発行者の教科書について研究しました。
本日はこの研究結果について、答申していただきます。

答申については、15分、質疑を5分とします。

それでは、国語の答申から始めます。準備をいたしますのでしばらくお待ちください。

【国語答申者】

- ・国語科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン等に基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区の国語科指導において、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題があり、複数の資料から適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりして書く力を重点的に指導する必要があります。
- ・また、第3次岐阜県教育ビジョンでも重視されていますように、これからの社会を担う子どもたちが、ふるさとを愛し、誇りをもち、その文化や自然を継承し、発展させるためには、カリキュラムマネジメントの推進や、その基盤となる資質・能力である言語能力の育成が求められます。言語能力の育成や言語活動の充実を担う国語科の指導について美濃地区の課題だと考えます。
- ・これらの美濃地区の課題と関連がある
着眼点1－(2)「『書くこと』の領域に関して、各学年にどのような内容が位置付けられ、どのように系統立てられているか」
着眼点2－(1)「郷土への誇りや愛着を育むことに関連した学習内容はどのようなものが位置付けられているか」
の2点から説明します。
- ・いま述べました2つの着眼点について、4者すべての調査結果を説明します。
- ・1点目の「書くこと」指導については、
①「東京書籍」は、

- ・「書くこと」の学習について、他の領域と同様に、目次の次に「国語の学習の進め方」、「6年で学習する言葉の力」と題して、付けたい力や言語活動について、示されています。
- ・「書くこと」のそれぞれの単元でも、前の学年で学習した内容との関連が示されており、学習の系統性が大切にされています。
- ・また、「書くこと」の教材については、全国学力・学習状況調査の出題傾向、結果分析や独自の調査に基づいて工夫がなされています。
- ・児童が書く文章の種類についても、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く力を付けるために、低学年、観察記録文、4年生、学級新聞やリーフレット、5年生、パンフレット、6年生、ポスターなどの言語活動が位置付けられ、児童が書いて伝えたいという意欲が高まるような教材の工夫がなされています。

②「学校図書」は、

- ・他の領域と同様に、「書くこと」についても、目次の次に「6年生の学習を始めましょう」などとして前の学年のふりかえりと、その学年で付けたい力が位置付けられています。
- ・また、各学年に「説明的」「実用的」「文学的な文章」を書く教材が2点から4点ずつ配置され、「書くこと」の教材が多く設定され、様々なジャンルの文章を学べるようになっています。
- ・さらに、「レッスン」という小教材が2年生から4年生を中心に、各学年に配置し、付けたい力を焦点化して学ぶことができるようになっています。

③「教育出版」は、

- ・他の領域と同様に、「書くこと」についても、目次の次に「6年生で学ぶこと」と題して、その学年の単元と付けたい力が示されています。
- ・また、1年間で学習する「書くこと」の単元の3分の2程度が上巻に配置され、「書くこと」を学習した後の、他教科や総合的な学習、行事などの実際の言語活動で、幅広く身に付けた力を生かすことができるような単元構成の工夫がなされています。
- ・2年生以上の学年では、学年の始めに書くことの小単元が設けられ、気持ちや思いを言葉や文章で表すことや、目にした情報を整理する方法などが示されており、日常生活と関連させながら「書くこと」の指導を継続して行えるような構成となっています。

④「光村図書」は、

- ・「書くこと」の学習についても他の領域と同様に、目次の次に「国語の学びを見わたそう」「6年生で学習すること」「5年生の学びを確かめよう」と題して、学習の進め方やその学年で付けたい力、前の学年で身に付けた力について、まとめられたページがあります。
- ・巻末にも「学習を広げよう」と題して、児童がその学年で身に付けた力について示されています。こうした構成は、児童の主体的な学びつなげる工夫といえます。
- ・また、単元の最初のページには「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の単元において、前の学年や既習の内容、および「学習の進め方」が明示されており、学習の系統性や学び方について、児童が意識しやすい工夫があります。
- ・さらに、「書くこと」の教材では、取材・構成・記述・推敲・交流の各過程を通してまんべんなく学びつつも、中心を明らかにして書く力を付けることに比重を置いた単元構成になっており、他教科の学習や学校行事などに関連付けながら、書く力をつけていけるよう配慮されています。

- ・ 2点目「ふるさと教育」との関連については、
 - ①「東京書籍」は、
 - ・ 2年生から6年生の各学年にわたって、ふるさと教育に関わる単元が位置付けられています。
 - ・ 4年生で「ふるさとの食」、5年生で「和菓子」「和の文化」、6年生で「町の未来をえがこう」という構成になっています。
 - ・ 6年生に地域社会の未来を考える単元が位置付けられていることが特色といえます。
 - ②「学校図書」は、
 - ・ 3年生、昔の遊び、4年生、地域の施設見学のまとめ、外国と日本の文化の違い、地域の安全マップ作り、5年生、方言、6年生、日本の魅力再発見の単元が設定されています。
 - ・ これらの単元において、調べ学習を通して、ふるさとを見つめることができるような教材となっています。
 - ③「教育出版」は、
 - ・ 2年生でふるさとに伝わる「祭り」などの行事を調べて発表する単元、5年生で自分の住む町のよいところを調べて、「まちじまん」を推薦し合う単元が位置付けられています。
 - ・ これらの単元において、地域を知り、地域の良さを感じることができるようになっています。
 - ④「光村図書」は、
 - ・ 全学年において、まんべんなくふるさとに関わる教材が設定されています。特に、4、5、6年生では、身の回りを見つめる、考える、書くという高まりで学習が配列されており、系統的な学習ができるようよく配慮されています。
 - ・ 以上、各発行者の特徴について説明しました。
 - ・ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことの指導に課題があり、郷土への誇りや愛着を育むことと関連した学習の充実が求められる美濃地区においては、児童が目的意識をもって主体的、対話的で深い学びができるような工夫や配慮がよりなされていることが重要となります。
 - ・ 以上から、各者の特徴を検討した結果、「東京書籍」と「光村図書」の2者がより美濃地区の児童の実態に合っていると考えました。
 - ・ 続いて、この2者を着眼点1「書くことの指導」において、美濃地区の課題に照らして、4年生の教材を例として比較します。
- ・ 1点目、単元の構成について、
 - ①「東京書籍」は、
 - ・ 4年生、上54ページ「「ふるさとの食」を伝えよう」の単元では、理由や事例を挙げて書く力を高めるよう、教材の工夫がなされています。
 - ②「光村図書」は、
 - ・ 4年生、下43ページ「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」の単元において、「読むこと」領域の「世界にほこる和紙」と「書くこと」領域の「伝統工芸のよさを伝えよう」とを、連続させた単元構成になるよう工夫されています。
 - ・ さらに、情報活用の力を確かにするために、「百科事典での調べ方」を中間に位置付けています。
 - ・ このように、読むことと書くことの領域の構成について、児童の主体的、対話的で深い学びを促すことができるよう、たいへんよく配慮されています。
- ・ 2点目、学習の見通し、進め方について、

- ①「東京書籍」は、
- ・4年生、下56ページ「学習の見通し」、59ページ「ふり返る」のように、各学年の書くことの領域で、児童の主体的な学びが促されるよう配慮されています。
- ②「光村図書」は、
- ・4年生、上53ページ「学習の進め方」、57ページ「ふりかえろう」のように、児童の主体的な学びを促すとともに、児童一人ひとりが、自らの主体的、対話的で、深い学びについて、実際に自己評価できる工夫がなされ、たいへんよく配慮されています。
 - ・3点目、指導事項の重点化について、
- ①「東京書籍」は、
- ・4年生、下58ページ、リーフレットの作成という言語活動において、書く事柄を集める、整理する、わり付けを考える、というように順を追って活動を進めることで、理由や事例を挙げて書く力が身に付くよう、配慮されています。
- ②「光村図書」は、
- ・4年生、下53ページで、同様にリーフレットの作成という言語活動において、くわしく調べる、整理する、組み立てと資料の使い方を考える、というように順を追って活動を進めるとともに、実際にリーフレットに文章を書く時間と、作成したリーフレットを読み合う時間を確保することによって、指導の重点化や児童の対話的な学びを充実させるという点で、たいへんよく配慮されています。
 - ・さらに、この2者を着眼点2「ふるさと教育に資する指導の充実」から顕著な例を提示して比較します。
 - ・学年ごとの単元の系統性について、
- ①「東京書籍」は、
- ・4年生、下8ページ「くらしの中の「和」と「洋」、5年生、142ページ「「和」の文化について調べよう」の2つの単元が位置付いています。
 - ・この2つの単元では、共通して「和」という内容を通して、児童が暮らす郷土に対する関心が高まるよう、配慮されています。
 - ・ちなみに、6年生では、138ページ「町の未来をえがこう」という単元が位置付けられています。
- ②「光村図書」は、
- ・4年生、下105ページ「もしものときにそなえよう」、5年生、72ページ「みんなが過ごしやすい町へ」、6年生、70ページ「私たちにできること」の3つの単元が、それぞれの学年の特性を踏まえて系統的に位置付けられています。
 - ・3つの学年で共通して「身の回り」のことを取り扱い、4年生で「身の回りの自然災害」、5年生で「身の回りの工夫」、6年生で「身の回りの問題」という内容を通して、児童が暮らす身近な地域に対する関心が高まるよう、たいへんよく配慮されています。
 - ・以上から、「光村図書」が、より配慮されていると考えます。
 - ・なお、教科書展示会において、特段のご意見はありませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・着眼点以外のこととなりますが、光村図書は5、6年生になると上下巻ではなく、一冊になっています。子どもに対する重量の負担はどう考えてみえるか。

【国語答申者】

- ・先ほどの説明であるように、巻末の付録がついており、1年間を通して巻末を参考にして学習を進めることができるよう考慮されています。質的なことから、上下巻に分かれていると、そういった学習がしにくくなると考え、上下巻合作の教科書が望ましいと考えました。

【委員】

- ・構成の違いが最初の見開きのところによく表れている。光村の方は、総合的にとらえて整備してあるのだが、東書の方はややばらばらな感じがする。書く力を付ける点において、そのあたりをどう考えるか。

【国語答申者】

- ・領域は3つに分かれていますが、子どもの言語活動ははっきりと分けることができない。全体を通しておさえてある光村の方がよりよいのではないかと考えました。

【委員】

- ・着眼点「主体的・対話的で深い学び」において、国語の本質である読解力を育成する視点から、光村と東京書籍の違いについて述べてほしい。

【国語答申者】

- ・学習を振り返るという点で光村図書はたいへん工夫がなされております。どんな力を使ったのか、自ら教科書にチェックできるような欄もあり、そういった面で使った力を振り返るという面から光村図書は、読解力を付ける工夫がなされています。

【委員】

- ・美濃地区の課題として目的意識をもって詳しく書くことを述べられました。児童の中には目的がなかなか定まらない児童もいると思います。目的を明確にする手立てについて、光村と東書の比較について教えてほしい。

【国語答申者】

- ・児童にとって目的とは、誰に何を伝えたいかということになります。その意味でカリキュラムマネジメントの視点から、光村図書の方が行事、教育活動とより合致しています。情報活用の単元が、読むことと書くことの間位置付けられていることも、目的意識をもつことにつながるより自信をもつことのできる構成に光村図書はなっていると考えました。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、光村図書を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、書写の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【書写答申者】

- ・小学校国語科書写では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、お手元の資料のようにすべての着眼点について調査研究を行いました。

- ・美濃地区における国語科書写指導の課題は、「自ら学ぶ力や態度」と「習得した知識・技能を活用する力」にあると考えられます。なぜなら、美濃地区の子どもたちは、書写の学習に落ち着いて真面目に取り組み、指示された活動を丁寧に行うものの、その時間に学んだ作品が上手にできることで満足してしまい、書写の学習を他の学習や活動に生かそうとする姿があまりみられないからです。
 - ・これらの課題と関連がある着眼点1【調査項目1－(3)】と着眼点2【調査項目2－(3)】の2点から説明をします。
 - ・着眼点1【調査項目1－(3)】「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、着眼点2【調査項目2－(3)】「多様な学びを支援する教育の充実」について、5者すべての調査結果を説明します。
- ① 「東京書籍」は、「書写のかぎ」と呼ばれる書写の学習で身に付けるポイントを1～6年生まで系統立てて示し、児童が見通しをもって学習ができるようになっていきます。(★画面は6年生の巻頭にある年間を見通した「書写のかぎ」の一覧です。)学習過程は「見つける」→「確かめる」→「生かす」の3ステップですが、最初のステップ「見つける」で複数の文字から単元で学習する「書写のかぎ」を児童自身で見つける構造になっており、主体的な学びを引き出しやすくなっています。多様な学びにつながるように、1～6年生で各教科における言語活動が、「生活に広げよう」で2つ、「学びを生かそう」で1つと、各学年で3つずつ実施されるようにバランスよく配置されています。
 - ② 「学校図書」は、どの単元においても「確かめて書こう」→「考えて書こう」→「生かして書こう」→「ふりかえろう」の4ステップの学習の進み方になっており、特に最初のステップで「試し書き」を行い後のステップで「まとめ書き」をすることで児童が学びの実感を得られるようにしています。(★画面は5年生の学習の進め方のページですが、「試し書き」と「まとめ書き」を比べるように促しています。)また、筆遣いの写真が児童の目線で撮影されており、具体的な運筆のイメージがもちやすくなっています。多様な学びにつなげる言語活動は、「書写の資料館」として巻末にまとめられ、学年が上がるにつれて少しずつ増えています。また、アルファベットや都道府県名は繰り返し練習ができるようになっていきます。
 - ③ 「教育出版」は、7つの段階に分けた学習の進め方の中で、「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の3ステップを大切にしています。また、姿勢や運筆の仕方について多くの写真で説明したり、道具の後片付けまで詳しく解説したりして、丁寧な指導を意識しています。さらに、対話的な学びをステップの最後「ふり返る 伝え合う」で設定し、「書写の言葉」の例を掲載して学びが深まるように工夫しています。(★画面は2年生の「ふり返る 伝え合う」のページですが、交流で使うとよい言葉をあげて、対話的な学びの質の向上を目指しています。)多様な学びにつなげる言語活動は多く設定され、特に「手紙・はがきが書ける子ども」を育てることをねらい、各学年に手紙の題材を配置しています。
 - ④ 「光村図書」は、各単元の学習過程が「考えよう」→「たしかめよう」→「生かそう」の3ステップとなっており、最初のステップで写真や図を活用して視覚的に原理・原則を考えさせる構造になっています。また、説明を少なくしたシンプルな紙面にしたり、各単元の紙面構成を整えたりすることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにしています。多様な学びにつなげる言語活動は、単元の終末等に発展的な学習として取り上げており、3年生以上では、2つの事例を取り上げ、児童がどちらがよいかを比較して考えられるような構成になっています。(★画面は6年生「文字の配列」の単元の終末にある発展的な教材です。ポスターと修学旅行のしおりを事例として取り上げ、

文字の配列の効果による「分かりやすさ」を比べています。)

- ⑤ 「日本文教出版」は、「考える」→「確かめる」→「いかす」の3ステップで段階を踏みながら学習をするようになっていきます。特に「考える」場面での筆遣いについての解説が詳しく、児童が実際に書く時にポイントとして参考にできます。(★画面は4年生「ひらがなの筆遣い」ですが、「むすび」の筆遣いのポイントについて、丁寧に示されています。) 多様な学びつなげる言語活動は全学年に配置され、「国語の広場」「生活と書写」のコーナーに分けられています。特に、「国語の広場」では何のために、誰に対して、どのような表現様式で書くのかをはっきりさせた言語活動例が提示され、スモールステップを踏みながら完成までの手順が明確に示されています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「自ら学ぶ力や態度」「習得した知識・技能を活用する力」に課題がある美濃地区については、児童が「学習の進め方に見通しをもち、主体的に書写の学習が進められるようにする」また、「習得した知識・技能を生かし、書写の学習を実生活に結び付けて活用していく」学びができるようにすることが重要となります。
 - ・よって、「東京書籍」と「光村図書」の2者がより実態に合っていると考えました。
 - ・次年度より完全実施される学習指導要領の「書写」では、低学年の(3)のウの(イ)に新しい指導事項として「点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと」が加えられました。そのための指導の工夫として、水書用筆等の使用を勧めています。これは硬筆で適切に運筆する能力を高めるとともに、3年生から始まる毛筆を使用する書写への円滑な移行も想定しています。ただし、「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する」と学習指導要領の解説に書かれているように、あくまでも毛筆で文字を正しく整えて書くことができるようにすることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となるものであることは今までと変わりありません。つまり、毛筆と硬筆との関連的な指導を一層工夫することがより求められているということです。
 - ・こうした点を踏まえながら、続いて、この二者をより深く着眼点1【調査項目1ー(3)】から比較します。「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について、比較した結果を説明します。
 - ・単元の指導過程については、2者ともに大きく3つのステップで学習を進めるようになっていきます。使われている言葉は異なりますが、「正しく整った文字を書くための原理・原則を考えるステップ」「実際に書くことで、その原理・原則を確かめるステップ」「学習した原理・原則を硬筆に生かすステップ」です。
 - ・この中で、ステップ1とステップ2を取り上げて、2者を比較します。
- ① 「東京書籍」の3年生の「横画」の学習ステップ1では、硬筆で書いた文字を比較して、違いを見つける導入になっています。身近な硬筆の文字から課題を考えることで、児童が日常で字を書く活動と関連させて考えることができるようになっていきます。また、硬筆の文字を最初に取り上げることで、毛筆の練習を通して学んだ原理・原則を、「生かそう」のステップで、色々な硬筆の文字に生かして書くことを意識しやすい学習過程となっています。「見つけよう」で見出した原理・原則は、それぞれの単元で「書写のかぎ」として位置付けられ、単元のねらいが焦点化されるとともに、児童が教科書に書き込むことで、確かな定着が図られるようになっていきます。
- ・「東京書籍」の4年生の「組み立て方」の学習ステップ2では、穂先の通り道や筆順、学習のポイントがわかる手本が図示されています。単元の学習事項と、関連する学習事項が示されており、毛

筆教材の左端に「書写のかぎ」インデックスがあることで、単元のねらいが常に意識できるよう工夫されています。また、毛筆教材として「竹笛」という文字が取り上げられており、「竹」と「竹かんむり」の違いを意識して書き分けられるようになっています。

- ・このように、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」につながるように、よく配慮されています。
- ② 「光村図書」の3年生の「横画」の学習ステップ1では、筆使いに気をつけて横画を書くという課題になっています。始筆・送筆・終筆の書き方について、筆の使い方が分かる写真やキャラクターを使った図版を豊富に用いることで、横画の書き方について、児童が視覚的にはっきりとつかむことができるようになっています。見つけた原理・原則は、それぞれの単元で「たいせつ」として必ず教科書の右下に位置付けられており、単元のねらいが焦点化されるとともに、児童が参考にできるようになっています。
- ・「光村図書」の4年生の「組み立て方」の学習ステップ2では、毛筆教材の右上に、穂先の通り道や学習のポイントが分かる手本が図示されており、上下の組み立てのバランスが視覚的に捉えられるようになっています。また、毛筆教材の左下に硬筆の書き込み欄が位置付けられていたり、「硬筆のまとめ」のページを指定したりすることで、毛筆で学習したことを硬筆に生かす練習を行うことができます。さらに、二次元コードが添付されており、インターネットと接続することで、動画コンテンツを活用することができるようになっています
 - ・このように、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」につながるように、配慮されています。
 - ・また、この2者を着眼点2【調査項目2－(3)】から比較します。「多様な学びを支援する教育の充実」について、比較した結果を説明します。
 - ・書写の学習を実生活等へ結び付ける発展的な言語活動は、2者ともにほぼ同数の設定があり、巻末にまとめてではなく、計画的に学習できるように配置されています。
 - ・この中で、3年生と5年生で扱われている「手紙」と「筆記具の使い方」に関わる言語活動を取り上げて、2者を比較します。
- ① 「東京書籍」の3年生「はがきでつたえよう」では、めあてを表すリード文に「文字の大きさや字間、文字の整え方に気をつけて読みやすく書きましょう。」と示すことで、これまでに学んだ「書写のかぎ」をどのように生かすとよいかを考えられるようにしています。特に、葉書の宛名では、書く位置と文字の大きさを連動させてナンバリングをし、文字の大きさを変えるのは「相手を大事に思う気持ちを表しています。」という意味まで確認できるようにしています。
- ・「東京書籍」の5年生「委員会活動を伝えるリーフレットを作ろう」では、「配列や使う筆記具に気をつけて読む人に伝わりやすいように書きましょう。」というリード文が示され、「配列」「筆記具と用紙」という「書写のかぎ」を使ってリーフレットを書き進めればよいことが分かりやすく示されています。そこで示された16ページの「筆記具と用紙」では、「ノートに書く」「看板を書く」「カードにお祝いの言葉を書く」「持ち物に名前を書く」という場面を取り上げ、その目的に合わせて筆記具を使い分けるよう促しています。このように、書写で習得した知識・技能を実生活に活用できるように、大変配慮されています。
- ② 「光村図書」の3年生「手紙の書き方」では、めあてを表すリード文に「相手に気持ちがつたわるように、ていねいに書こう。」と書かれてあり、封筒のあて名や手紙の文面での書き方のコツや

ポイントが赤色で示されています。特に押さえておきたい書き方のポイントが、端的な言葉で書かれてあることにより、児童が書写で学んだ知識・技能の何を活用させればよいかを考えながら手紙やあて名を書くことができるようになっていきます。

- ・「光村図書」の5年生「めざせ新聞記者」では、「文字の配列」「筆記具の使い分け」で見出しを大きくしたり、筆記具を場面によって使い分けたりするとよいことを、モデルとなった児童新聞の記事や小見出しなどを例として挙げながら示しています。さまざまな筆記具によって書かれた文字の違いや、色の使い分けの効果についても触れてあり、児童がこのページで習得した知識や技能を使い、新聞を書く場面を例として挙げながら実生活に活用できるように、配慮されています。
- ・以上の調査結果から「東京書籍」がより配慮されていると考えます。

以上が調査研究となります。

- ・なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・書写の教科書を見渡してみると気になったことがあった。小学校では1年生から横書きの授業も行っていると思うが、東京書籍の方は、1年生から横書きの説明がなかった。横書きの指導の仕方についてどのように考えているのか教えてほしい。

【書写答申者】

- ・硬筆は書写の時間だけで指導している訳ではない。各学年30時間程度書写の時間にあてられているが、国語の時間も横書きの指導を行う。国語は縦書きが多いが、生活科では横書きで行う。書写の時間は基本的には文字の形を整えて書くことを学び、すべての時間の中で硬筆の指導を行っているため、横書きは何年生からということはありません。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、社会の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【社会答申者】

- ・これより社会科の教科書についての説明をいたします。
- ・社会科では、学習指導要領や、第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・これより、3者それぞれの特徴について発行者番号順に説明いたします。
- ・まずは、東京書籍「新しい社会」から説明します。東京書籍は3年、4年、5年上、5年下、6年政治国際、6年歴史の6冊から構成されております。
- ・一番厚いものは4年生の182ページです。

- ・この教科書は、社会科を初めて学ぶ3年生から6年生までの学び方を系統的に位置付け、発達段階に応じて児童が学んでいけるよう大変良く配慮されています。
- ・重要語句は単元のまとめで一覧にして、この言葉を使って単元をまとめるということで、学んだ内容が定着するよう配慮がなされています。
- ・単位時間の中で、どの見方や考え方を活用していくのかをキャラクターを使って児童に分かりやすく示しており、社会科教師以外の社会科を指導する教員にとっても指導しやすくよく工夫してあります。
- ・単元末のまとめは、活動の中で対話が必然的に生まれるよう工夫しています。たとえばランキングを作るとか、どっちの立場に立つなど、児童自らの判断を問い、その根拠を話さざるを得ないという状況を作り出しているという意味です。
- ・単元の構成は、つかむ、しらべる、まとめる、いかすをすべての単元に位置づけ、社会科の学習の進め方を児童自身が身につけることができるようによく配慮されています。
- ・次に教育出版「小学社会」について説明します。教育出版は3年、4年、5年、6年の4冊で構成されています。
- ・一番厚いのは6年生でおよそ280ページあります。
- ・3、4年生では、欄外に単位時間の学習活動を示すことで、社会科を初めて学ぶ児童が何をすればよいのかわかりやすく示しています。
- ・単位時間は、問いから始まるわけですが、その問い自体が社会的な見方や考え方を働かせるよう工夫してあります。
- ・単元末のまとめは、6年生は知識理解の穴埋め問題を位置付け、そのあと話し合うようにするなど工夫されています。
- ・単元の構成は、つかむ、しらべる、まとめる、つなげるという構成になっており、問題解決的な学習を身に付けることができるように配慮されています。
- ・最後に、日本文教出版「小学社会」です。教科書は3年、4年、5年、6年と4冊の構成になっています。
- ・一番厚いのは5年生の280ページです。
- ・この教科書は、どの学年も文字数や資料などが多く、知識量としては3者の中で一番でした。
- ・難解な語句を欄外に位置付け、解説も多くあり、文字数や、資料の多さなどと合わせ、社会科教師が授業を組み立てる際の情報源として有効なものと言えます。
- ・単元の構成としては、学習問題を解決していく作りになっていて、主体的な学びを意識しています。また、内容的には、非常に時間をかけて深く学ぶ単元（室町文化やアジア太平洋に広がる戦争の単元）と、さらりと流す単元があり、作成者の思いが顕著に表れています。
- ・単元のまとめは、ほとんどの単元で単元の学習課題について話し合おう、自分のできることを話し合おうという方法で、対話的な学びを促しています。
- ・これらの3社から選ぶにあたり、岐阜県、特に美濃地区における社会科指導の特徴についてお話しします。
- ・美濃地区は、5年生で学習する低い土地である海津市、工業の基幹となる自動車工場が坂祝町や豊田市にあること。また、4年生で学習する特色ある地域と人々の暮らしで伝統的な産業の美濃和紙や関市の刃物産業などがあり、児童が自分の目で確かめられるという利点を有していることです。しかし、社会科の専門の教師だけが社会科を受け持つわけではないため、指導においては、どのような見方や

考え方を大切にしている授業なのかが、明確でないまま学習を進めているということも少なくない状況です。

- そこで、改訂された学習指導要領や、第3次教育ビジョン、県の方針と重点、そして、美濃地区の特徴を踏まえ、いくつもの着眼点の中から、1－(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と、2－(1)「ふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと学習の推進」という2つの着眼点から3者の教科書を比べてみました。
- まずは着眼点の1－(3)「主体的で対話的で深い学び」から説明します。
- 東京書籍は、主体的な学びという点からみると、先ほども話しましたが、問題解決的な学習を促す学習の進め方を強く意識し、どの学年でも最初の段階で見開きを使って説明しています。
- 実際のページでは、それぞれの時間の学習課題はもちろんのこと、つかむ、調べる、まとめる、生かすという学習段階がわかるようになっており、学習の流れをたどることができるようになっています。
- まとめる段階では、対話的な学びを促す構成になっており、そのバリエーションが大変豊富です。
- ここでいうと、避難所に300人避難してきたが、弁当が200食しかない。どうするかという問題について話し合うようになっています。
- さらには、子どもだけでなく、指導する教師にも、この時間はどの見方や考え方を生かしてまとめればよいのかが分かるよう、ドラえものの絵を用いて、明確にしています。
- 教育出版も、先ほども申したように各学年の最初に、つかむ、調べる、まとめる、つなげるという学び方を示しています。
- 実際のページでは、学習問題を示し、単位時間に学習する内容を明らかにしています。
- 単元のまとめは、学んだことをカードに書いて整理したり、標語を作ったりと対話的な学びに向けての工夫がなされています。
- 日本文教出版は、単元の学び方の説明はなく、授業を進めていく中で自然と身につけていく構成になっています。
- 見方や考え方を、博士のイラストやマークで示すことで、単元の中で一番大切な見方や考え方を示しています。
- 単元末のまとめ方は、中学年ではかるたを作ろう、双六を作ろうなど、活動的なものもあり、高学年はグループでの話し合いを促すもので統一し、対話的な学びを意識しています。
- 着眼点1－(3)から見ると、東京書籍が主体的で対話的で深い学びを意識していると思われます。
- 次に着眼点2－(1)のふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと学習の推進という点から説明します。
- 東京書籍は、5年生「低い土地の暮らし」で、ふるさと岐阜の事例であり見学が可能な、日本を代表する低地の一つである海津市を取り上げています。また、同じく5年生の自動車産業では、多くの学校が社会見学で訪れているトヨタ自動車を取り上げています。
- 「私たちの生活と食糧生産」で中津川市の給食を取り上げて導入に活用できるようになっています。4年生では、「火山災害から暮らしを守る」ということで御嶽の噴火対策について取り上げています。
- 教育出版は5年生「国土の気候と地形の特色」で日本海側の気候の特徴として白川郷を取り上げています。3年生の「市のうつりかわり」では、発展学習の情報として岐阜っ子バスを取り上げています。
- 6年生の「戦争と人々の暮らし」の中の発展学習の中で、岐阜を代表する偉人である杉原千畝を取り上げています。
- 日本文教出版は、5年生「低地に住む海津市の人々の暮らし」で、見学が可能な海津市を取り上げて

います。

- ・これらのことから、ふるさと学習の推進ということでは、教育出版も工夫されていますが、東京書籍が美濃地区の児童には一番学習に活用しやすいのではないかと思います。
- ・着眼点1－(3)、着眼点2－(1)のどちらから見ても、東京書籍が児童にとって活用しやすいものであると判断しました。
- ・以上が調査研究の結果となります。
- ・なお、教科書展示会において、内容について「東京書籍は、憲法のことまで丁寧に書いてあるのがよい」という意見がありました。
- ・これは、東京書籍だけが、わたしたちのくらしと憲法ということで、憲法のことだけでまとめをしていることから、日本の仕組みという大枠だけを説明するのではなく、自分たちの暮らしが憲法で成り立っているという説明があるからだと思われます。

以上で答申を終了します。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・初めて社会を学ぶ3年生で、「社会って楽しいな」「もっと学びたいな」と児童が思うことは大切であると考えます。最初に「自分たちのまち」があるが、教科書には例として福岡市などがあるが、例えば美濃地区の郡上市、美濃市、関市のことを学んでみたいな、と思わせるような工夫において何か差はあるか。

【社会答申者】

- ・東京書籍の単元の入り方というのは、3年生から6年生までを通じて、自分たちの立場からスタートします。例えば政治の学習で、いきなり「市役所はどうなっているのか」と市役所を見学するのではなく、自分の周りの公民館がどうやってできたのかから入り、自分たちの願いから政治のはたらきについて学ぶようになっている。今言われた3年生については、関市、美濃市、郡上市は副読本を取り入れている。副読本は、教科書の流れをもとにして、学校の周りからスタートして、だんだん広がっていくようになっています。

【委員】

- ・社会の教科書を読んでいるととても楽しい。採択される教科書は1つだが、他の会社の教科書も調べる際の参考書にもなる。興味がある子は見たいと思う。大人になっても読みたいと思う時があり、共通話題にもなる。全教科書を学校図書館に置くなど、多くの人が読むことができる工夫ができないか。

【司会者】

- ・一般の方々にも読んでいただき、ご意見を伺うということで、教科書センターをいくつかの場所に用意している。この後は各市とも教育委員会が中心となって、教科書を閲覧することができるようになります。子どもたちがということになると、各教科書が市販され、それを学校図書館に置くということについては、学校の判断によるころだと思えます。確かにそれぞれ、いい情報が得られることはあると思いますが、まずは定められた教科書を使って授業を行うことが基本となります。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましい

という結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、地図の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【地図答申者】

- ・社会科地図の調査結果について報告させていただきます。
- ・学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針などにに基づき、お手元の資料にありますような着眼点に従って、調査研究を行いました。
- ・美濃地区では、児童の実態等から、「地図帳の基本的な使い方を身に付け、地図を通して各地域の様々な情報を読み取り、地図を活用する力」と「主体的、発展的に学習を進める意欲や態度」の育成を重要な課題としてとらえています。そうしたことも踏まえて調査研究を行いました。
- ・調査研究しました発行者は、「帝国書院」と「東京書籍」の2者です。
- ・調査研究を行った結果について、特徴のあった、着眼点1の(1)「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」と1の(3)「主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善」それから、着眼点2の(2)「ICTを活用した学習活動」と2の(3)「多様な学びを支援する教育の充実」について説明をします。
着眼点1の(1)「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」について、「基礎的、基本的な知識・技能の習得のための学習内容はどのようなものであるか」を中心に見てみます。
- ・帝国書院では、7ページから、「地図って何だろう」に始まって、「地図のやくそく」1, 2, 3、「地図帳の使い方」1, 2と、地図の仕組みや地図帳の使い方が12ページにわたって、丁寧に説明してあります。
- ・また、「トライ」というコーナーで作業的学習も取り入れて、「地図活用の基本的な技能」が身に付くよう、内容や構成がよく配慮されています。
- ・「東京書籍」では、同じ内容をP13、14の見開き1ページで説明をしています。
- ・具体的に、同じ「方位」の説明を見てみると、東京書籍と帝国書院では、このようになっています。
- ・東京書籍では、八方位の表し方が示してあるのみですが、
- ・帝国書院では、「トライ」のコーナーなどを設け、作業的学習をして、理解するようになっています。
- ・着眼点1の(2)「学年間の関連、系統性」ともかかわってきますが、新学習指導要領で3年生から地図帳を給与し、地図指導を行うことになったことを踏まえると、帝国書院の方が3年生にとって、より地図活用の基礎・基本の習得が図れるような内容・構成になっているといえます。
- ・もう1点、領土を扱ったページをご覧ください。
- ・帝国書院29、30ページでは、日本の「東西南北端」に加え、固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島も同じページに写真と説明を掲載して、領土について見開き1ページでわかるように構成が工夫されています。
- ・また、地図も行政図で隣国との位置関係、経済水域などがわかりやすくしてあるなど、我が国の領土にかかわる基本的な内容がとらえられるよう、よく配慮されています。
- ・一方、東京書籍はP15、16です。説明は詳しくしてありますが、

- ・固有の領土については、北方領土は北端として16ページに択捉島の説明と写真がありますが、
- ・尖閣諸島は18ページ、竹島は27ページに、それぞれの島が所属する県の載っているページで扱い、写真と説明を載せています。
- ・また、地勢図で示し、山脈や平野、海溝までわかりますが、情報量が多くなり、隣国や排他的経済水域などがややわかりにくくなっています。
- ・次に、着眼点1(3)「主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善」にかかわって「主体的に地図帳を活用して学習に取り組むための構成」について報告します。
- ・同じ関東南部の地図で比較して説明します。帝国書院の60ページ、東京書籍46ページをご覧ください。
- ・帝国書院では、「地図マスター」というコーナーを設け、レベル1から3を設定し、さらに巻末の117ページにはチェック表を設けて、児童の興味・関心・意欲を高め、ステップを踏んで地図活用の技能や社会的な見方・考え方を育成するようによく配慮されています。
- ・このページでは、「地図マスター」のコーナーで、「東京ディズニーランドの絵を探してみよう。」「市街地の広がりや東京・大阪・名古屋で比べてみよう。」「製油の記号が海沿いに多い理由を77～78ページや99ページなどから説明してみよう。」と、地図を活用する学習活動を設定し、地図を比較する見方や地理的要因をとらえられるようになっています。「地図マスター」は、全部で80問あります。
- ・東京書籍では、キャラクターが吹き出しで、見方や考え方、活用の仕方等について投げかける構成により意欲や関心を高める配慮がなされています。
- ・このページでは、「茨城県や千葉県には野菜の記号がたくさんあるね。」「たくさんの鉄道や道路が東京とつながっているね。」という、キャラクターの吹き出しで、地図の見方、特徴に気づくようにされています。吹き出しは、全部で39問あります。
- ・続いて、着眼点2(2)「ICTを活用した学習活動の充実」にかかわって、「教材や構成、分量はどのようなものであるか」について述べます。
- ・どちらも2次元コードが設置してあり、パソコンやタブレットで読み込むと他の資料などにつながるようになっています。
- ・帝国書院の56ページと東京書籍の11ページを例に説明します。
- ・帝国書院は、それぞれの標題の横にQRコードがあり、そこからタブレットなどに読み込むことができます。そして、地図帳と同じ地図や白地図が多くあり、モニターで拡大して掛図代わりにして指導に使えます。また、児童が家庭でも白地図等を取り出して学習することもできます。
- ・東京書籍は、「Dマーク」が示されたところについてのクイズや動画が示されるようになっています。また、関連するHPとのリンクもあり、調べ学習をするなどに活用できるようになっています。「Dマーク」がページによって、上や下にあることから、見つけづらいところがあります。また、巻末に掲載されたアドレスやQRコードからアクセスするようになっているので、「Dマーク」を見つけたら巻末を開きアクセスするという手順を踏まないと活用できません。
- ・最後に、着眼点2(3)「多様な学びを支援する教育の充実」にかかわって、「学習状況に応じて学習に取り組むための資料の構成、分量はどのようなものであるか」という視点で調査しました。
- ・帝国書院87ページ～90ページ、東京書籍69ページ～70ページで説明します。
- ・帝国書院では、「自然の様子」について、地形と気候を分けて掲載しています。そのため、季節風の

説明があったり、雨温図が横に並べて示され、比較しやすくなっていたり、大変わかりやすくなっています。

- ・一方、東京書籍では、「自然の様子」を扱ったページは、地形と気候が見開き1ページで扱われています。この構成の仕方は、「日本の産業の様子」でも同じで、(帝国書院は、農水産業と工業と交通に分けて掲載していますが、東京書籍は、水産業・農業・工業を見開き1ページで扱っています。(P 95～98、東京書籍P 71～72)
- ・このように、帝国書院の方が、資料図を個の状況に応じて活用できるようによく工夫されているといえます。
- ・ご説明してきましたように、帝国書院の方が、よく配慮されている点が多く見られ、調査研究委員会では「帝国書院」のものがより適していると考えます。
- ・以上が調査研究となります。
- ・なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。
以上をもちまして、社会科「地図」の答申を終わります。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・帝国書院のQRコードを拾ってみたところ、非常に上手に出ておりました。ただ電子黒板の導入はこれからだと思いますが、先日、郡上高校にてICTを活用した授業を行っていた。ICTの活用をどんどん進めてほしい。

【委員】

- ・自然災害について興味があって両者を見たが、帝国書院の方がより詳しく取り上げていて、現在地震等自然災害が大変関心が高いところで、こういったことで子どもたちの勉強になると感じた。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、帝国書院者を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、算数の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【算数答申者】

- ・算数科では学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などにに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区における算数科の課題は、思考力・判断力・表現力に弱さがある算数の学習に対して受け身的であり、進んで学ぶ姿勢に弱さがあることです。
- ・これらの課題と関連がある
着眼点1 数学的な見方・考え方を働かせ、自ら学びを深める学習内容の構成
着眼点2 各学年相互間の関連及び、系統性、発展性

の2点について、調査研究を行いました。

それでは、

・着眼点1 数学的な見方・考え方を働かせ、自ら学びを深める学習内容の構成

着眼点2 各学年相互間の関連及び、系統性、発展性について

特に、かけ算「乗法」わり算「除法」に関わるテープ図、数直線の活用した演算決定指導の系統性

について、6者すべての調査結果を教科書発行者番号の順に説明します。

(1)「東京書籍」は、

①特に数学的な見方・考え方を働かせ、学びを深める問題において、教科書の端に「今日の深い学び」コーナーを設け、学び方を繰り返し提示しています。発表する場面では、友だちの考えを読み取って説明する活動や複数の考え方を比べ、共通点や相違点について、比較検討する活動を取り入れています。

②系統性については、3年でテープ図と数直線を並べて表記、4年で2本の数直線の間テープ図を入れて表記し、段階的に指導しています。また、子どもたちがつまづきやすい倍の概念を獲得したり、かけ算「乗法」やわり算「除法」の意味を子ども自身が2本の数直線を使って考えられるように、3年生以降乗法・除法の学習のたびに、くり返し用いています。

(2)「大日本図書」は、

①学年初めの学習で、特によく考えて話し合いながら学習する内容において、問題をつかむ段階から今日の学習を振り返る段階まで、問題解決に至る過程を教科書の端を使って丁寧に示しています。また、自分の考えを発表する仕方や友だちの考えを説明する仕方、複数の考えを比較、検討する視点を板書例と共に具体的に示し、一年間の算数の学び方を子どもたちに提示しています。

②系統性については、3年でテープ図と数直線を並べて表記し、4年でテープ図のテープを細くしながら、2本の数直線へ移行するなど、児童の思考を大切にしています。また、子どもたちがつまづきやすい倍の概念を獲得したり、かけ算「乗法」やわり算「除法」の意味を子ども自身が2本の数直線を使って考えられるように、3年生以降乗法・除法の学習のたびに、繰り返し用いています。

(3)「学校図書」は、

①6年間を通して身に付けたい見方・考え方をキャラクター化し、教科書のはじめのページで、子どもにわかりやすい表現とともに示しています。さらに、教科書の随所に登場させ、見方・考え方を継続的に育てることを目指しています。

②系統性については、4年でテープ図と数直線を並べて表すとともに、表や図を活用しています。5年で2本の数直線へ移行し、表も併記しています。

(4)教育出版は、

①巻頭に「算数で使いたい考え方」コーナーを設け、前学年で使った考え方を振り返り、授業で使いたい言葉を共有できるようにしています。また、数学的な見方を獲得する場面では、コラム「算数のミカタ」を設け、領域ごとの数学的な見方を示しています。

②系統性については、3年生上の巻末「かけ算とわり算の図」でかけ算、わり算の図を振り返った後、2本の数直線で表記しています。

(5)啓林館は、

①巻頭「学習の進め方」、「わくわく算数学習」において、問題解決学習の流れを示すとともに、巻末「算数資料集」において、分かりやすく説明したり、友だちの考えをよく聞くポイントを示しています。

②系統性については、4年で数量関係をテープ図と数直線、矢印という2種類の図で表記し、5年で2本の数直線の間には細かいテープ図を入れ、2本の数直線へ移行しています。

(6)日本文教出版は、

①「自分で・みんなで」のページで、折込を閉じた状態で出題からめあてを立てるまでの過程と、答えを導き出すための多様な「見方」「考え方」「方略」を示すことによって問題解決への見通しをもたせています。

②系統性については、3年と4年で、テープ図と数直線を活用して習熟を図り、5年で2本の数直線へと移行しています。

・以上、各発行者の特徴について説明しました。「思考力・判断力・表現力」「進んで学ぶ姿勢」に課題がある美濃地区については、児童が「算数の学び方を身に付け、見通しをもって、主体的な学びができるようにすることが重要となります。

・よって、「東京書籍」と「大日本図書」の2者がより実態に合っていると考えました。

・続いて、この2者を着眼点2「各学年相互間の関連及び、系統性、発展性」から比較します。中学年、高学年の児童がつまづきやすい「乗除に関わる演算決定」「計算の仕方の理解」におけるテープ図、数直線の活用について、比較検討した結果を説明します。

(1)「東京書籍」は、

・3年「かけ算の筆算」で、テープ図と数直線を並べて表記し、1個の値段に着目しやすいように、色を濃くしたり、求める3個の代金の部分を□で示しています。この学習を受け、4年「小数のかけ算とわり算」の学習において、第1時に2本の数直線の間にはテープ図を入れて関係性を示し、次の時間には、2本の数直線へと移行しています。また、巻末でかけ算とわり算の数直線の図のかきかたを見開きにまとめ、その違いを明らかにしています。5年「小数のかけ算」の学習では、2本の数直線の図を使って、かける数が小数でもかけ算の式にしてよい理由や計算の仕方を考えています。このように、児童の発達段階を踏まえるとともに、思考の連続性がよく配慮されています。

(2)「大日本図書」は

・3年「かけ算の筆算」でテープ図と数直線を並べて表記し、言葉の式に合わせて、色分けして1つ分、いくつ分、全体の大きさを表し、言葉と図が結び付くようにしています。さらに、文章から1つ分、いくつ分を読み取り、数直線の図に表す問題を設けています。4年「2けたの数でわる計算」で、テープ図のテープを細くし、数直線の図と並べて表記して、2本の数直線へ移行しています。この学習においても、文章から図にあてはまる数をかき入れる問題を設けています。巻末で、数直線図のかき方をまとめています。わり算における「1つ分」を求める問題と「いくつ分」を求める問題、両方のかき方を並べて表記するとともに、かけ算、わり算の数直線図のかき方を統合的に示しています。5年「小数のかけ算」の学習では、2本の数直線の図を使って、かける数が小数でもかけ算の式にしてよい理由を考えています。さらに、計算の仕方を数直線図と関連付けて示しています。この計算の仕方と数直線図を関連付ける表記のしかたは、5年「小数のわり算」6年の「分数のかけ算」「分数のわり算」においても貫かれ、児童の発達段階を踏

まえるとともに、思考の連続性がよく配慮されているとともに、数直線図を使って考える系統性にも大変よく配慮されています。

以上が調査研究となります。

- ・この調査から、「大日本図書」が児童が数学的な見方・考え方を働かせ、学びを深めることができると思われました。
- ・なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・算数の難しさを発達段階で考えていくと、3、4年中学年になると難しいとよく言われます。その大きな原因が、低学年のうちには具体であったものが、中学年になると抽象思考に移ってくる。9歳の壁という言葉も聞いたことがある。指導する先生としては、抽象思考をできるだけ具体的に落として指導していくことが算数の力を付けていく上で大きなことではないかと思う。今、答申者から数直線について非常に具体的に説明があり、よく分かりました。数直線以外で2者について、抽象思考を具体的にする点で違いがあれば教えてほしい。

【算数答申者】

- ・問題の設定の仕方について、例えば、大きな数の筆算のところでいきますと、両者ともスーパーに行っているいろいろな買い物をする場面を想定しており、配慮がされていると思います。

【委員】

- ・説明があったように、私も大日本図書が分かりやすい内容ではないかと思う。巻末のひらめきアイテム集について、いつどのように指導するのか教えてほしい。

【算数答申者】

- ・これは新しく出てきたところで、今回の教科書を読んでみますと、各学年のまとめ、前の学年のまとめが巻末によく記されていて工夫されています。このページは、このマークが出たらこのページにメモをして、これからこの考えを使っていくよと知らせており、子どもたちが算数の定着できるようによく配慮されています。

【委員】

- ・年度末にもここを見直すということですか。

【算数答申者】

- ・はい。ここは切り離すことができるようになっていて、これを算数の教科書やノートに挟んでおくと、より分かりやすい使い方ができます。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、大日本図書を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、理科の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【理科答申者】

今回、理科の調査研究を行ったのは、6者です。最初に6者の教科書の特徴について、説明いたします。

①「東京書籍」についてです。

物理、科学、生物、地学の各領域での見方や、各学年で身に付けさせたい考え方に基づいた、構成や表記の工夫がされているのが特徴です。また、単元の終わりには、学んだことを深めるために、日常生活と関連付けて発展的に学習出来るようになっています。

②「大日本図書」についてです。

関連する他教科の内容が取り上げられていたり、物理、科学、生物、地学の領域が異なっている内容を関連させるような単元配列がされたりしており、横断的、縦断的な工夫がされているのが特徴です。また、プログラミング教育に関する内容に多くのページをさいており、ICTを活用した学習が充実しています。

③「学校図書」についてです。

自然界の法則を深く、広く学べるように、1つ1つの学習内容について詳しく解説がしてあり、教科書を読むことで知識、理解が深まるような構成になっていることが特徴です。また、防災に関することが多く取り上げられており、随所に様々な教材と関連付けられています。

④「教育出版」についてです。

言語活動を重視した学び方に重点が置かれ、国語科との関連、考察時の話し合い活動の例示、ノートの取り方が丁寧に扱われているのが特徴です。また、学習内容の系統性が意識できるように工夫されており、各学年で学んだことがまとめられていたり、中学校の内容へのつながりが示されたりしています。

⑤「信州教育出版社」についてです。

見本本の提供がなかったため、調査研究ができませんでした。

⑥「啓林館」についてです。

全体的に平易な言葉遣いや、手書き文字が多く使われており、児童にとって読みやすく親しみやすいと感じました。シンプルな表現と詳しい説明の使い分けがあり、内容が分かりやすくなっていることが特徴です。また、深める学習の部分にQRコードが多く使われていて、ICTの活用が意識されています。

以上、6者の教科書について、小学校学習指導要領の趣旨や美濃地区の実態などに基づいて調査研究を行いました。

まず、学習指導要領の趣旨についてです。今回の改訂で、理科においては、特に、問題解決の学び方と、科学的な見方・考え方の育成に重点が置かれていますので、より授業で扱いやすく構成されていることが大切であります。

また、美濃地区における理科指導の課題についてです。

美濃地区に限らず、岐阜県小学校の理科指導は、問題解決型の授業を大切にしてきています。今回改訂の重点になっている、科学的な見方・考え方を育てることも大切にして来ました。しかしながら、美濃地区においては、小規模校が多く、理科免許を持っている職員が必ずしも学校に配置されているとは限らないことが課題でもあります。

以上の点を考慮し、さらに、次の3つの観点を持ち、調査研究を行いました。

<観点1>

思考力・判断力・表現力を身に付ける学習の部分が児童にもわかりやすく、かつ、課題づくりからまとめまでの学習の流れが、科学的な思考に基づく主体的・対話的で深い学びとなるように構成・配列上の工夫がされているかどうか。

<観点2>

理科が専科ではない教員でも、科学的な見方・考え方を大切にしたい指導がしやすい構成・配列上の工夫がされているか、また、安全で正しく実験を行う指導のための構成上の工夫がされているかどうか。

<観点3>

美濃地区の豊かな自然を生かした教育の推進のために、美濃地区の気候や地形に合う教材の採用や単元配列になっているか。

まず、3つの観点からすると、6者のうち「東京書籍」と「啓林館」の2者の教科書は、児童の意識にあった学習の流れになるように構成等が工夫されていたり、科学的な見方・考え方が分かりやすく示されていたりしており、より実態にあっていると考えました。

続いて、この2者について、3つの観点から詳しく説明いたします。

①1点目の「思考力・判断力・表現力を身に付ける学習の部分が児童にもわかりやすく、かつ、課題づくりからまとめまでの学習の流れが、科学的な思考に基づく主体的・対話的で深い学びとなるように構成・配列上の工夫がされているかどうか。」について説明いたします。

4年「天気と気温」の単元です。

啓林館4年『天気と1日の気温』では、単元導入のページにおいて、校舎全景を写した2枚の写真(晴天時、雨天時)が掲載されています。日常体験を想起し課題づくりをして、晴天時と雨天時の一日の気温変化を同時に扱っています。

東京書籍4年『天気と気温』では、単元導入のページにおいて、校舎付近を写した2枚の写真(晴天の朝、晴天の昼頃)が掲載されています。一日の気温変化に注目させ課題づくりをし、まず、晴天での気温変化の特徴を見つけます。その上で、雨天や曇りの一日の気温変化の特徴を見つけます。

どちらも、課題づくりから天気の様子と一日の気温変化と関係づける考え方を大切にしています。啓林館は、同時に天気の違いと気温変化の違いという視点と、一日の時間の流れと気温の変化という2つの視点を同時に考えさせることになり、深く考えられる一方で、混乱する可能性があります。東京書籍は、1つ1つ関係性を明らかにしながら進めていくため、児童にとって考えやすい構成になっています。6年『てこのはたらき』のてこがつり合うきまりを見つける場面です。

啓林館は、実験結果から3人の児童が考察します。

「支点からのきよりが2倍になると、つり合うときの重さは半分になるよ。」

「支点からのきよりが2倍になると、うでを引く力の大きさが半分になるということだね。」

「うでを引く力の大きさは支点からのきよりに反比例するのかな。」

ここからまとめに入っています。

東京書籍は、班ごとの考察になっています。

1班は「支点からのきよりを2倍、3倍にしたとき、おもりの重さはそれぞれ2分の1、3分の1になっています。」「右のうでの支点からのきよりとおもりの重さの積が左のうでと同じになっています。」

4班は、「4班でも、支点からのきよりとおもりの重さとの積が、左のうでと右のうでが同じになって

います。」と話しています。

どちらも、実験の結果を多面的に分析し規則性を考えられるような工夫がされています。

東京書籍は、例示した考えのすぐ横に根拠となる表も載せてあり、表の見方の違いと関連させて考えることをうながしており、多面的に結果を捉える考え方ができるようになっています。

②2点目の「理科が専科ではない教員でも、科学的な見方・考え方を大切にした指導がしやすい構成・配列上の工夫がされているか、また、安全で正しく実験を行う指導のための構成上の工夫がされているかどうか。」について説明いたします。

理科は実験観察が必ずあり、事故の未然防止のための安全指導が大切です。専門的な知識が必要ですので、専科でない教員にも指導しやすい工夫がされていることは重要だと考えています。

安全指導について記述されている項目数は、全学年で、啓林館は181、東京書籍は148でした。啓林館の方が安全指導の数が多くなっています。

6年『水溶液の性質』の5つの水溶液の違いを調べる実験で具体的に比べてみます。

啓林館では、「注意」と強調して7項目、記号で4項目の合計11項目示しています。

東京書籍では、「きけん」と強調して5項目示しています。東京書籍が5に対して啓林館は7と多く記述されています。詳しく見てみると、

啓林館は、「ピペットの先は割れやすいので注意する」「ピペットのゴム球に水溶液が入らないように逆さまにしない」のように、事故に直結しない正しい器具の使い方の注意点や「実験が終わったら残った水溶液を決められた容器に集める」のように、環境に配慮した注意点（ピペットの先は割れやすいので注意するピペットのゴム球に水溶液が入らないように逆さまにしない・保護眼鏡と換気・水溶液どうしを混ぜない・においは手であおいでかぐ・加熱中は蒸発皿をのぞきこまない・出てきた気体を吸わない・実験が終わったら残った水溶液を決められた容器に集める）も「注意」として扱っているのに対し、東京書籍は事故に直結する安全面（必ず窓を開けて実験を行う・保護眼鏡をつける・蒸発皿に顔を近づけない・出てきた気体を吸わないやけどをするので熱したものは冷ましてからさわると・石灰水や塩酸がつくと目や皮膚などをいためる）のみを「きけん」として扱っており、安全指導と正しい実験器具の使い方と区別されている点での違いとなっています。

安全指導と実験方法と区別し、安全指導のみを「きけん」として注意喚起を促している東京書籍の方が、専科でない教員でも的確に安全指導がよりできるようになっていると考えます。

理科は、ともすると決まりや名称や特徴などの知識・理解を教えることが目的となってしまうことがありますので、新学習指導要領で示されている、理科の見方・考え方や問題解決の方法の指導が分かりやすくなっていることが大切だと考えます。

3年『磁石』で、磁石につくものを予想する段階の扱い方を例に比較してみます。

啓林館3年『じしゃくのふしぎ』では、キャラクターの吹き出しで、「金属」という物質に視点をあてたり、「電気を通すものを調べたときと同じいいものを調べてみよう。」というように既に学習した内容と比べる視点を示したりしています。

東京書籍3年『じしゃくにつけよう』では、『理科のミカタ』コーナーの中に、予想を立てるための視点がまとめてあるとともに、キャラクターが具体的な予想の仕方を例示しています。

3年では、科学的な考え方としては「比較して考える」、問題解決の方法としては「生活で経験したことを当てはめる」ことを指導しますが、東京書籍の方が、より分かりやすく明記してあるため、学習する児童自身が意識しやすくなっているだけでなく、指導する教師も意図的に指導しやすくなっている

と考えます。

③3点目の「美濃地区の豊かな自然を生かした教育の推進のために、美濃地区の気候や地形に合う教材の採用や単元配列になっているか。」について説明いたします。

5年『花のつくり』の学習です。

啓林館は、4月の学年最初に「花のつくり」の単元を位置付けており、最初にアブラナの花のつくりを調べる学習からスタートしています。

東京書籍は、夏休みが終わって最初に「花から実へ」の単元を位置付けており、初秋に児童が育てたヘチマの花や下級生が生活科で育てているアサガオの花のつくりを調べる学習をします。

扱いはどちらもよいのですが、美濃地区の気候を考慮すると、春先でも気温が低い郡上市や関市の北部では、4月最初の時期では、まだアブラナの花が咲いてないので、啓林館の教科書では単元を入れ替える必要が生じます。東京書籍の方が美濃地区の気候により合っているといえます。

最後に、地域教材の取り扱いについてです。

啓林館は、岐阜県について2点取り上げています。5年で白川郷、6年で御嶽山が、どちらも追加資料として紹介されています。

東京書籍は、岐阜県について4点取り上げています。3年で不破郡、5年で、関市、岐阜市、美濃市、郡上市を取り上げています。

5年『流れる水のはたらき』では、このように、長良川を中心教材として取り上げており、上流域の様子として郡上市、中流域の様子として美濃市、下流域の様子として生活圏内の岐阜市の川の様子の写真が使用されています。

どちらも岐阜県の自然等が取り扱われていますが、東京書籍は美濃地区の自然が大きく取り扱われています。

以上の調査研究の内容をもとに総合的に吟味した結果、東京書籍がよく配慮されていると考えます。

なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

以上で、報告を終わります。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・東書の教科書に目次が記載されていないが、使っていく上で使いにくさはないか。

【理科答申者】

- ・当初、私たちも開いた時に「目次がない」とびっくりしたのですが、裏表紙を見ていただくと、後ろのページのところに目次が載っておりますので、子どもたちにとって後ろの見やすいところに目次があるというのは、逆に使いやすいかなと思います。それぞれ教科書会社によって考え方があと思います。ただ、最初のところに4つの領域に分けられていますので、「教材が大きく4つに分けられているんだな」と分かる学年もあるので、そういった工夫もされています。

【委員】

- ・啓林館と東京書籍を見た中で、6年生の消化の学習で唾液を摂取する内容について、啓林館の方は綿棒を使っている、東京書籍の方はストローで唾液を入れるようになっている。いろいろな方法があると思うが、綿棒を使った方が教室内での混乱を防ぐことができるので啓林館は配慮してあると思った

が、実際の教室の中で唾液を摂取することは子どもたちにとって抵抗はないのでしょうか。

【理科答申者】

- ・まさにおっしゃる通りで、以前は綿花を口の中に入れて湿らせり、見えないところに入れるなどいろいろ配慮や工夫がなされています。他の教科書を見てもビニール袋に入れるなど、衛生面や子どもたちの心情を配慮した実験方法がどの教科書も工夫してあります。どういう方法をとったとしても、唾液に対する意識が残ってしまうので、教師がきちんと指導することが大切と考え、方法についてはそれぞれの教科書会社の工夫と捉えるようにしました。

【委員】

- ・東京書籍の内容についてのよさはよく分かりました。感想になりますが、表紙が非常に素晴らしくて、この女の子の表情がよく、こういう子を育てたいなと素直に思いました。そこに、3年生で言うと「みつきたい」、4年生で言うと「たしかめたい」と、端的に学年で大切にしたいことが書かれており、理科の学習をやっていこうとすることが伝わってきて、ダイナミックなメッセージを感じることができて、先生たちにとっても、子どもたちにとっても使いやすい教科書だと感じました。

【委員】

- ・東京書籍の表紙は、主体者である児童を表紙にしている、4年間で男子と女子を入れ違いになっており、そういうところまで配慮されていることが分かります。啓林の方もいい写真ですが、対象物を扱っており、これから主体的ということにより自分からという子どもたちにとっていいイメージになるのではないかと思った。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、音楽の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【音楽答申者】

- ・今回、「音楽」の調査研究を行ったのは、2社です。最初に2社の教科書の特徴について、説明いたします。

① 「教育出版」についてです。

音楽の授業を、学習として成立させるにはどのように行くとよいか？に焦点を当て、活動の仕方や音楽用語、音楽の授業で使いたい言葉などについて、使いやすいように配慮して細かく丁寧に記述されています。また、迫力のある大きな写真や実物大の鍵盤ハーモニカ写真、ICTの活用などを工夫している点も大きな特徴で、指導者がこの教科書を見ながら指導に当たることを考慮した内容や言葉で編集されています。

② 「教育芸術社」についてです。

学習指導要領で示されている教科の目標にのっとり、それを達成するために、各学年の発達段階に応じた学習内容や音楽活動を吟味し、児童にとって分かりやすい記述や表記が工夫されています。リズムや旋律などについてより正しくとらえられるように工夫したイラストや、子ども目線の解

説写真など、児童が教科書を見ながら授業を進めることができるよう、配慮されています。

学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。

美濃地区の小学校において音楽科の授業は、音楽専科ではなく、担任が指導していることが多いのが現状です。そのため、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」のいろいろな点から、主体的に学んだり、学んだことを活用したりすることに課題があります。

そこで、これらと関連がある次の3点について観点をもち、調査研究をおこないました。

1点目は、「知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のための学習内容および活動・構成・配列は、どのようであるか。」ということです。

2点目は、「主体的・対話的で深い学びを実現するための学習活動は、どのように仕組みられているか」ということです。

3点目は、「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わえるような内容や、岐阜県に関わる内容は、どのようなものが取り上げられているか。また、その分量はどうか」ということです。

第3次岐阜県教育ビジョンに取り上げられている「ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進について」と大きく関わってきます。

これより、3つの観点到って、詳しく説明いたします。

1点目の「知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のための学習内容および活動・構成・配列は、どのようであるか。」について説明いたします。

始めに、知識及び技能を習得するための学習内容・構成・配列についてです。

音楽において、「音の長さや高低」「リズムや拍、拍子」を正しくとらえることは、とても大切な知識・技能です。それは、5線譜と呼ばれる楽譜に表記された音符を読むことでとらえられますが、特に低学年においては、その楽譜を読むことが大変困難です。高学年においても、ピアノなどの特別な習い事をしていない限り、素早く正しくとらえることは難しいのが児童の実態です。ですから、各教科書では、様々なイラストや絵譜を工夫し、より正しくとらえることができるように工夫して表記されている部分がたくさんあります。ここでは、リズムや旋律を視覚的にとらえた絵譜1年生を例に比較・解説します。

教育出版では、この（と言って資料①を指す）ように、拍を♡で示し、図の上段に配置しています。四分音符を○で「たん」、四分休符を◆で「うん」と表記し、音を出すものと、音を出さないものの区別を明確にしていますが、時間的には同じ長さの両者が、サイズの違う記号で表記されています。

教育芸術社では、この（と言って資料②を指す）ように、拍は●ですが、図の下段に配置することで、拍が音楽の流れの土台となっていることを感じ取ることができるように工夫されています。また、四分音符は○で「たん」ですが、四分休符の「うん」は色の違う●で四分音符と同サイズに表記し、視覚的にも同じ長さを持つ音符であることを1年生の児童がとらえやすいように表記されています。

また、旋律を視覚的にとらえるための絵譜2年生についても違いがあります。

教育出版では、この（と言って資料③を指す）ように、「そりすべり」という曲の旋律を示しています。この雪の結晶のような絵は、「そりすべり」という曲のイメージと繋げていますが、客観的な音の長さや、小節の切れ目や拍子などの情報は表記されていません。

教育芸術社では、この（と言って資料④を指す）ように、「トルコ行進曲」の旋律を示しています。音の高低や長さだけでなく、つながりまで把握できるように、小節線や拍が示されています。それらは

題材の学習の中心的な要素ではありませんが、音楽を特徴付ける大切な要素として、どの学年でも同じように表記されています。

このように、両社とも旋律の繰り返し（反復）に着目して鑑賞しますが、表記の仕方には大きな違いがあります。

次に、思考力・判断力・表現力を育むための学習活動・構成・配列についてです。

音楽では、教科書の教材曲を使って、音楽の知識や技能を高めながら、同時に表現を工夫する活動を通して、音楽の良さや楽しさを味わいつつ、思考力や判断力・表現力を育んでいきます。その際、「どんな要素に着目して、どのような思考や判断をし、どのように表現するか？」という一連の流れが、児童の主体的な活動と感覚で行われることが大切です。そして児童は、教師のアドバイスや教科書の記述などからヒントを得て、思考力を働かせて主体的な学びを進めていきます。そんな学習の一例として、4年生「とんび」の学習の例をもとに比較・解説します。

教育出版^ウ P30～31では、P30 下段のまなびナビ（方位磁石の記号）で、その学習の進め方が示されています。また、より音楽的な表現をめざすためのヒントとして、P31 上段の「音楽のもと」が示されています。

一方、教育芸術社^エ P38～39では、P38 上段の題材名の下に、表現を工夫する際の思考・判断の根拠となる観点が明確に示されています。また、P39 下段の「よびかけとこたえをいかそう」には、曲のどの場面で歌い方が工夫できるか？ また、どんな思考をしたらよいのか？の例が示されています。学習活動だけでなく、その活動の中でどのような思考・判断をしたらよいのか？を児童にもわかるように示すことで、児童が主体的に学びながら、より音楽的な表現に近づくことができるように配慮されています。

2点目の「主体的・対話的で深い学びを実現するための学習活動は、どのように仕組みられているか」について説明いたします。

最初に、主体的に学ぶための学習活動について、比較説明します。

「教育出版」には、主に歌唱教材に「学び合う音楽」（①3年P43）のページがあります。題材の目標を達成するためや願いを生かすための表現の仕方について順序立ててまとめられています。一人一人はもちろん、グループや学級でも表現を深めていくことができるよう工夫されています。

「教育芸術社」では、歌唱教材に限らず、鑑賞や音楽づくりなどのどんな活動でも、主体的な学びができるように工夫されています。

特に「音楽づくり」の活動では、最初に学び方が提示されています。（②6年P22.23¹）（指指す）さらに、学びを焦点化するための吹き出しがあります。これによって、児童はもちろん、指導者も、「音を即興的に表現する」活動から、「音を音楽へと構成する」活動へつなげるために、どのように工夫すればよいかが、吹き出し・共通事項の言葉・図 などを通して、理解することができ、深い学びをすることができます。また、ワークシートに書き込みながら、学習を進めることで、誰が教えても、同じように大切なことを落とさず、学ぶことができるように工夫されています。

さらに、（③6年P45）6年ふるさとでは、音楽についてみんなで話し合ったり、インタビューしたりすることで、音楽を通して人と人をつなぐことができるよう発展させています。

次に、願いや見通しをもって学習するための工夫について比較説明します。

「教育出版」では、全学年の巻末に「音楽のもと」まとめがあります。（④6年生）その学年までに学習した共通事項について、絵や言葉や図で学年の発達段階に合わせて整理したまとめが工夫されていま

す。

「教育芸術社」も、全学年の巻末に「ふりかえりのページ」があります。(⑤6年生)その学年までに学習した共通事項について、写真や言葉、楽譜で、学年の発達段階に合わせて整理されています。楽譜があることで、どの教材でどのように学んだのかを自分で振り返ることができるように工夫されています。

さらに、全学年の表紙裏には、「⑥〇年生の学習 1年間でこんな学習をするよ」のページがあります。「歌う」「演奏する」「つくる」「きく」で、どのような学習をするのかが、絵と言葉でまとめられています。1年間でどんな学習をするのか、見通しをもち、主体的に学ぶことができるよう、工夫されています。

3点目の「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わえるような内容や岐阜県に関わる内容は、どのようなものが取り上げられているか。また、その分量はどうか。」について説明いたします。

最初に両者で取り上げられている国歌「君が代」について、比較説明いたします。

「教育出版」では、全学年の教科書に(①1年)同じように歌詞・楽譜・さざれ石の写真と説明が掲載されています。さらに5・6年生の教科書(②6年)には、歌詞の大意が掲載されています。1年生から、国歌にこめられた願いや思いを大切に歌うことを大切にしています。

「教育芸術社」では、いずれの学年でも歌えるよう指導することから、さらに一歩進み、各学年の目標や内容と関連させ、児童の発達の段階に即して、適切な指導をおこなうことを大切にしています。低学年(③2年)では、「親しみをもち、みんなと一緒に歌う」ことに重点をおき、親しみがもてるように、オリンピックで選手が君が代を歌っている写真を掲載。中学年(④4年)では、「歌詞や楽譜を見て覚えて歌う」ことに重点をおき、さざれ石の写真や解説を掲載。高学年(⑤6年)では、「国歌の大切さを理解し、歌詞や旋律を正しく歌う」ことに重点をおき、互いの国歌を尊重するために、国歌を歌ったり聴いたりする時のマナーを掲載しています。これらの写真やコラムなどによって、国歌「君が代」への意識が自然に高まるとともに、他国の国歌や国旗も尊重する態度を養うことができるよう工夫されています。

次に、岐阜県に関わる内容はどのようなものがあるかについて比較説明します。

「教育出版」、5年(⑥P37)「わたしたちの国に伝わる歌や声の表現を楽しもう」では、郡上八幡の盆踊りの写真が掲載されています。岐阜県にどんな歌があり、どんな時に歌われているのかが、写真で伝わるように工夫されています。

「教育芸術社」、5年「日本の音楽に親しもう」(⑦P57)では、「郡上節(岐阜県)」が記載されています。拍ののったリズムと拍のない自由なリズムの曲の2種類ある民謡のうち、郡上節がどちらになるのかを記載することで、音楽的な学びをさらに深めることができるように工夫されています。

また、4年「地域に伝わる音楽に親しもう」(⑧P31)では、高山祭の屋台行事の写真が掲載され、より身近なものとして学ぶことができます。

これらの結果から教育芸術社が、よく配慮されていると考えました。

以上が、調査研究となります。

なお、教科書展示会において、次のような意見がありました。

教育芸術社の音楽の教科書に国歌の脱帽についての写真があった。(5年) これは、教育の配慮としては、いかがなものだろうか。(このような危うい教科書は、採択されない方がよいと思う。)

表紙も昭和な雰囲気、令和の時代には、合わない。2社しかないのだから、どちらを採択しようが、変わらないのでは？ (私が子供のころから教育芸術なので、そんな危うい会社よりは、もう一つの会

社を採択すればよいと思う。)

先ほどもご説明しましたが、国歌の指導に対して、学習指導要領では、高学年は、「国歌の大切さを理解し、歌詞や旋律を正しく歌えるようにする」ことが大切であると書かれています。それを受けて、教育学芸社では、「互いの国歌を尊重しよう」をねらいとし、自国の国歌と同じように、他国の国歌を尊重することも大切である。そのために、国歌を歌ったり、きいたりするときのマナーの一つとして、起立して頭にかぶっているものを取ることがよくおこなわれていることが述べられているので、教育的配慮が足りないとは判断しませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・両方の教科書に共通して出ていた「こいのぼり」について、学校の現場で男女間の平等ということを大切にしてみえると思いますが、この曲の歌詞についてはどう思われますか。

【音楽答申者】

- ・共通教材については、こいのぼりもそうですが、子どもたちが1回で理解することが難しい言葉がよくあります。歌詞の解説については、写真や実物を見せながら説明することが多いですが、今おっしゃられたことについて、とりわけ深く説明することはございません。

【委員】

- ・教育芸術社の方が振り返りのページが丁寧にまとめてあることや、新しく覚えることとして、きちんと学年で新しく学ぶことをおさえてあることから、子どもにとって使いやすいと思いました。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、教育芸術社を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、図画工作の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【図画工作答申者】

- ・図画工作科では、学習指導要領や第3次教育ビジョン、県の方針などに基つき、お手元の資料にあります全ての着眼点について研究調査を行いました。
- ・調査結果の前に、美濃地区における図画工作科指導の課題についてご説明します。
- ・美濃地区には、図画工作科・美術科の免許をもつ教員が配置されていない小規模校が多くあり、日常、どのように指導したらよいのか、相談する場もなく、困っている教員が多くいます。また、児童数も少なく、多様な発想や表現に触れる可能性も狭くなります。そのため、何を重点とするのか、どのように指導するのが明確であることや、多様な発想、表現の例が掲載されていることが求められます。
- ・課題とは逆に、恵まれた自然や地域独自の文化・素材に恵まれているというよさがあります。第3次岐阜県教育ビジョンでも唱われているとおり、ふるさとに誇りをもてるような題材も重要です。と同時に、先進的な文化・デザインに触れられる機会が少ないことから、これから先の時代を考えること

につながる題材も必要です。

- ・自然や地域の文化・素材を活かすことと、ICTの活用などにより、これから先の時代に目を向けること、この二つの側面をバランスよく兼ね備えていることも選定条件の一つになると考えられます。
- ・では、これらの課題とも関連のある1－(1)、1－(2)、2－(1)、2－(2)の4点から開隆堂および日本文教出版社の2者の調査結果を説明させていただきます。
- ・着眼点1－(1)「資質・能力を相互に関連させた内容、その程度や分量」についての調査結果です。
- ・2者ともに、すべての題材で新指導要領が示す資質・能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの力が、各題材のページの最初の部分に明確に記述されています。
- ・開隆堂の教科書では、3つの力のうち、編集者が重点を置きたいと考えた項目が目立つ色で示され、それに対応する評価の言葉が、ページの最後に、子どもへの問いかけで記述されています。
- ・日本文教出版社の教科書では、どの題材でも「学びに向かう力・人間性」を大切にし、ページの最後に子どもの言葉で願う姿が示されています。
- ・2者ともに、3つの力のうち、「知識・技能」については、子どものつまずきを予想し、必要となる知識・技能が適宜示されています。また、巻末には発達段階に即した技法や道具の扱い方などが掲載されています。
- ・「思考力・判断力・表現力」についても、どちらも多様な作品や表現する姿が写真で数多く紹介されています。
- ・開隆堂では、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を家庭でも身に付けられるよう、多くの題材のページにQRコードが掲載されています。
- ・日本文教出版社では、作品づくりの初期段階や途中といった制作の過程、ある子どもの表現の変容などが、写真と子どもらしい言葉で示されています。
- ・2者ともに、3つの力を育むために工夫や配慮がなされています。特に「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を養うために、制作の過程や表現の変容が示されている、日本文教出版社の教科書は、児童が主体的に表現活動に取り組んだり、表現に関わる知識・技能を着実に身に付けたりする点でよく配慮されています。また、図工・美術の免許をもつ教員が少ないという美濃地区の課題点から見ても適していると考えられます。
- ・次に着眼点1－(2)「各教科等および学年相互間の関連および系統性、発展性・資質・能力を相互に関連させた内容、その程度や分量」についての調査結果です。
- ・最初に、他の教科や領域などとの関連についてです。
- ・開隆堂では、他の教科と関連がある題材については、ページの最後に「あわせて学ぼう」という言葉のあとに国語や理科などの教科名が示されています。
- ・日本文教出版社では、現在美濃地区で採用している他教科の教科書と直接関連する参考作品が掲載されたり、関連させることを目的とした題材が設定されたりしています。
- ・続けて程度や分量についてです。
- ・2者の、図画工作科における学習領域である、「造形遊び」「絵」「立体」「工作」の割合を比較します。
- ・開隆堂では、全学年で119題材があります。そのうち「造形遊び」が約13%、「絵」が約41%、「立体」が約11%、「工作」が約29%、「鑑賞」が約5%で、特に1・2年では「絵」が43から45%と多くなっています。

- ・日本文教出版社では、全学年で134題材があります。「造形遊び」が約17%、「絵」が約33%、「立体」が約19%、「工作」が約22%、「鑑賞」が約8%です。
- ・2者ともに、他教科や他領域との関連について配慮されています。特に日本文教出版社の教科書では、国語や図書館教育と直接関連する物語をもとに表現する題材、理科の学習を生かして制作する題材が設定されており、よく配慮されています。また、図画工作科における学習領域のバランスも、よく配慮されています。
- ・続いて着眼点2－(1)「ふるさとへの誇りと愛情を育む、ふるさと教育の推進」についての調査結果です。
- ・美濃地区では比較的得ることが容易な木や和紙などの素材を活用できる題材、恵まれた自然を活動や制作の環境としている題材の数は2者においてほとんど差はありません。
- ・しかし郷土に直接かかわりのあることについては、若干の違いがありました。
- ・開隆堂では、1. 2年上で鑑賞用として、岐阜県出身の熊谷守一の「白猫」という作品が掲載されています。
- ・日本文教出版社では、5. 6年下で、美濃市で行われているあかりアート展の作品と、手すき和紙の工程が写真で紹介されています。他にも5. 6年上で熊谷守一が岐阜県の作家として、3. 4年上では美濃加茂と高山の土が紹介されています。
- ・日本文教出版社では、美濃地区や岐阜県に関連した作品例・写真が掲載されていますが、2者ともに、子どもたちが住む地域のよさを生かすよう、よく配慮されています。
- ・最後の着眼点2－(2)「ICTを活用した学習活動の充実」についての調査結果です。
- ・開隆堂では、いくつかの題材でQRコードが掲載されており、スマートフォンやタブレットなどで、道具の使い方や作品例などが紹介されています。
- また、5. 6年上にはICTを活用した表現が、5. 6年下にはデジカメなどの使い方が紹介されています。
- ・日本文教出版社では、3. 4年上でデジカメでの撮影の仕方が、5. 6年下でデジカメの応用、インターネットの利用の注意点などが紹介されています。また、ICTの利用が可能な題材では、鑑賞のために作品完成後にデジカメで撮影したり、インターネットの活用を推奨したりしています。
- ・2者ともにICTの活用が配慮されています。
- 特に開隆堂の教科書では、QRコードが掲載されており、気軽にデジタルコンテンツが利用できるよう、よく配慮されています。
- ・以上をまとめると、開隆堂の教科書は4つの着眼点のうち2つでよく配慮されており、日本文教出版社の教科書は4つの着眼点のうち、3つでよく配慮されています。
- ・以上が調査研究となります。
- ・なお、教科書展示会において、特に意見はありませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・答申者の方の表現過程に着目された意見や領域のバランスについてお話がありましたが、これも新学習指導要領にそった意見だと私も感じました。

【委員】

- ・子どもたちの目指す姿が6年生に集約されているという点から、鑑賞について日本文教出版は2か所、開隆堂は1か所であるが、この辺りについてはどう考えるか。

【図画工作答申者】

- ・今のご意見について大変勉強させていただきました。鑑賞題材のバランスについては、日本文教出版の方がどの学年をとりましても、バランスがよく、将来的に生涯学習に向かって日常の生活に生かされていくという点においては、日本文教出版の鑑賞題材の方がより工夫されているのではないかと研究調査での話題となりました。

【委員】

- ・市の美術展やいろいろな作品展を見させていただくと、絵画がほとんどである。教科書も絵画が多いのかなと見ると、絵画部門は少ないと感じました。説明を受けると、33%ということで、絵画も大切に扱われているのだと感じました。

【委員】

- ・感想ですが、私も日本文教出版の方が、子どもの興味がわく教材が多いのではないかと思います。例えば、1、2年生下巻の28ページの色紙をいろいろと合わせていろいろな見方をする教材も日本文教出版の方が優れている、工夫があると思ったり、同じく1、2年生の下巻30ページに音が出る楽器の工作があるが、視覚だけでなく聴覚も養うことができる教材だと感じました。また、5、6年生上巻18ページにあるアニメーションの教材は、ICTの活用が進んでアニメーションを作るところまで進んでいて感心しました。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、日本文教出版社を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、保健体育の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【保健体育答申者】

- ・小学校体育科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区の小学校体育科における指導の課題は、「主体的・自立的に学ぶ力」と「自らの考えを表現する力」を伸ばしていくことが重要であるということが挙げられます。
- ・児童が「学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む〈主体的な学び〉」や
- ・「個人の考えを意見交換したり、議論したりすることで新たな考えに気付いたり、自分の考えをより妥当であるとしたりする〈対話的な学び〉」
- ・そして、「情報をもとに自分の考えを形成したり、目的や場面、状況に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりする〈深い学び〉」ができるようにすることが重要となります。

- ・そこで、課題と関連がある着眼点1（3）、着眼点2（3）の2点から、説明をします。
- ・着眼点1（3）＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善＞、着眼点2（3）＜多様な学びを支援する教育の充実＞について、五者すべての調査結果を説明します。

①「東京書籍」は、

- ・単元目標を達成するために、毎時間の内容の道筋が明記されていて、見通しをもちやすくなっています。
- ・「ステップ1 気づく・みつける」では、イラストや写真から自ら課題をつかむことができるように工夫されています。
- ・そして、その課題について、主体的・対話的に思考し判断するとともに、表現する活動を通して解決できるように、「ステップ2 調べる・解決する」・「ステップ3 深める・伝える」・「ステップ4 まとめる・生かす」という流れで、進めることができるように作られています。
- ・また、「資料」や「読み物」により、学習した内容を深めたり広げたりしています。例えば、身近な生活の中のユニバーサルデザインについて、写真を用いて具体的に説明をしています。

②「大日本図書」は、

- ・実生活を表すイラストから、指定した人物を探す活動を通して、描かれている人々の行動や要因を考え、興味関心をもって課題づくりができる構成になっています。
- ・「やってみよう」・「話し合ってみよう」・「活用して深めよう」などと位置付けることで、学習の動機づけがなされています。
- ・学習内容に関連する「資料」やさらに発展させた「もっと知りたい」のコーナーは、学習を広げたり深めたりしています。例えば、身近な生活の中のトイレについて、ユニバーサルデザインのマークが例示されています。

③「文教社」は、

- ・単元の課題が最初に提示されていて、学習内容につながるイラストや活動が位置付けられています。単元の導入の部分では、学習内容に関わる疑問や学習の方向について、キャラクターの子どもたちが投げかけています。
- ・「振り返ってみよう」や「調べてみよう」では、学習内容と自分の生活を繋げて考えることができるようになっています。
- ・また、「新しい自分にレベルアップ」のコーナーでは、理解していることをどう活用していくかを考えることができるようになっています。
- ・学習内容をさらに深めるために「発展」のコーナーが設けられていて、LGBTに関する内容も取り上げられています。

④「光文書院」は、

- ・4コマ漫画で学習内容に触れることで、課題を導き学習の方向性を示しています。
- ・「はじめに」の学習活動が最初に位置付いていて、学習内容につながる活動や、自分の生活を振り返る活動を通して、課題を明確にしています。
- ・そこから、課題解決に向かって「調べよう」・「話し合おう」・「考えよう」・「やってみよう」などの活動に繋がっています。
「さらに広げよう 深めよう」や「自分の生活に生かす・伝える」では、学習内容をさらに深めたり、今後の自分に生かしたりすることができるようになっています。

・人権や福祉に配慮した内容の資料が多く紹介され、LGBT も取り上げています。

⑤「学研」は、

- ・学習内容に関わる、「学習してみたいこと」を位置付け、子どもの吹き出しにより単元の方向が提示されています。
 - ・最初に「つかむ」の活動が設定されていて、学習内容に繋がるように、自分の生活を振り返ったり、実験して検証したりすることができるようになっています。
 - ・「考える」「調べる」「話し合う」などの活動を通して学習を進め、「まとめる 深める 生活につなげる」でまとめる流れとなっています。
 - ・「かがくの目」という資料により、科学的見地からの資料も多く掲載されています。
 - ・「もっと知りたい 調べたい」においては、心身の個人差に配慮しつつも、探求心に応じて学習を広げたり深めたりできるようにしています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「主体的・自立的に学ぶ力」、「自らの考えを表現する力」に課題がある美濃地区については、「東京書籍」と「光文書院」の二者が、より実態に合っていると考えました。
- ・続いて、この二者を着眼点1（3）から比較します。＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善＞ について、比較した結果を説明します。
- ・5年生の「けがの防止」の単元を見ていきます。

①「光文書院」は、

- ・導入の「はじめに」の部分で、これまでの自分の生活から課題を見つけ、「調べよう」でけがの原因には「人の行動」と「環境」によるものがあることについて考えています。
- ・そして、「話し合おう」のコーナーで、実体験や挿絵から考えたことを話し合う活動が位置付けられています。
- ・それをもとに、「生かそう 伝えよう」で、これまで自分が危険な思いをしたことに立ち戻っています。
- ・これらの活動を通して、学びを深めようとしており、教科書を使って自ら学習を進め、質の高い学びを実現するという点で配慮されています。

②「東京書籍」は、

- ・ステップ1のイラストから、身近な自分たちの生活を振り返り、危険な場面に気付き、見つける活動を行います。
- ・次に、ステップ2では、その中から抜き出した場面についてけがの原因を考えています。
- ・さらにステップ3では、事故やけがが起こる原因として、「人の行動」と「環境」によるものがあることを知り、冒頭のイラストから抜き出した4つの場面について、どちらが原因かを考え、交流しています。
- ・最後に、ステップ4で学習のまとめをしています。これらの活動を通して、学びを深めようとしており、教科書を使って自ら学習を進め、質の高い学びを実現するという点で、よく配慮されています。
- ・以上の調査結果から、「東京書籍」が、よく配慮されていると考えます。
- ・以上が調査研究となります。
- ・なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・今いじめ、不登校、自殺の問題が挙げられているが、心の教育が非常に大切である。東京書籍の心の健康の学習において、素晴らしい点があれば教えてください。

【保健体育答申者】

- ・東京書籍の教科書6年生「新しい保健」の14ページに、子どもたちが自分の悩みをどのように解決していくのかという方法について、いろいろな方法があるんだよという多くの方法が例示されている点がよいと思います。

【委員】

- ・先ほどの説明で、けがから自分を守るということについてよく分かりました。自分を守るということについてお尋ねをしたい。今子どもたちが直面しているネットの被害について、ネット被害から自分を守ることは、どの教科でもやっていかなければならない課題がある。その中でも保健体育科で、どのようにネットから子どもを守るということが構成されているのか、位置付けられているのかという点について教えていただきたい。

【保健体育答申者】

- ・東京書籍36ページ、「インターネットによる犯罪被害」という項目があげられます。東京書籍に限らず、こういうところで相談できるという相談窓口が教科書に提示されております。自分の中で悩みでいっぱいになってしまった時に、他も頼る方法があるということは、どの教科書も大切にされております。

【委員】

- ・教科書の中にもあります、交通事故の防止ということについて、メインは被害にあうことが想定されているが、今は加害者になるということが非常に重要視されています。子どもであっても自転車事故を起こしてしまったら、犯罪者になることもある。それに対して、自転車の保険加入とか、自転車で老人や小さい子にぶつかってしまった場合どうなるのかなどの教育をこれからの時代重要視しないと子どもの人生に大きく関わってくる。そういった教育も行ってほしいと強く思っている。

【保健体育答申者】

- ・関市でも保険の加入率を調べたりとか、具体的な例をあげて損害賠償が何千万円かかるなど、子どもであっても自転車の事故を起こすとどうなるのか、どの学校でも話していると思う。保健でも十分つなぐことができる内容ですので、指導に入れていきたい。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、家庭科の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【家庭科答申者】

- ・家庭科では、東京書籍と開隆堂の2者について調査しました。この2者が全ての発行者となります。
 - ・その両者について、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などについて全ての着眼点について調査研究を行いました。
 - ・美濃地区における家庭科指導の課題は、児童の生活経験が乏しく、家庭生活に関する知識・技能・経験値が低いこと、若手教員急増後も、児童に分かりやすく指導できる手立てが必要であること、地域によっては複式で授業をしなくてはならないこと、新学習指導要領の改訂の趣旨に対応しやすいこと等が挙げられます。
 - ・これらの課題と関連する大きく3点から説明をします。
- (1) 初めに、学習指導要領の示す内容との関わりに関する観点からです。

①「題材の配列」と「ガイダンス」

- ・学習指導要領では、5年生の最初の授業に「ガイダンス」という授業をすることが定められています。これは4年生までの学習を踏まえ、今後2学年の学習の見通しをもたせ、主体的な学びにつなげる大切な内容です。
- ・東京書籍は、表紙見開きに「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」と、家庭科の目標そのものを示す文言を掲げ、これまでの学習と5・6年生での家庭科学習の見通しを、山登りの図で表現しています。若手教員が急増する現場の実態にあつて、経験の少ない教師にも指導しやすく、児童にもイメージしやすいレイアウトとなっています。
- また、次のページには学習の足あとを記録するスペースが用意され、成長の実感や自覚を促す工夫がされているのもポイントです。
- ・開隆堂は、表紙見開きに「これまでの学習を家庭科につなげよう」「はじめよう家庭科」の文言を掲げ、4年生までの学習と、2年間の学習内容をクローバーのくきでつなぐレイアウトとなっております。4年生まで、5年生、6年生の学習…。とシンプルに整理されていることが特徴です。
- ・また、このページについては、学習指導要領に示された学習内容の配列という点からも、両者の特徴を報告します。
- ・開隆堂は、ピンクの数字1～11のユニットが5年生の内容、緑の数字1～9のユニットが6年生の内容です。家庭科は、A 家族と家庭生活、B 衣食住の生活、C 消費生活と環境の内容を2年間に履修すれば、ユニットの順番を入れ替えることも可能です。ただし、調理と縫い物については、簡単なものから順に学習するように決められており、包丁の持ち方を学習しないまま高度な調理実習を行ったり、手縫いの基礎を学習する前にミシン縫いを行ったりすることはできません。ですから、ユニットを入れ替える場合も、クッキングやソーイングの最初は必ずこの内容を扱わなくてはいけないということが、「はじめの一步」というタイトルで良く分かるように配慮されています。
- ・それに対して東京書籍は、上段を5年生、下段を6年生が履修する題材配列としておりますが、数字を乗せたマークと色分けによって、どのユニットがどんな学習内容かが一目瞭然に分かるよう配慮されております。家形のマークは家族と家庭生活、Tシャツ形は衣食住の衣、おわん形は衣食住の食、ライトは衣食住の住、木の葉は消費生活と環境というように分かりやすく示しているため、複式授業のために配列を入れ替えなくてはならないときも、A年度は衣生活を中心に同じマークの簡単なものから履修する、B年度は食生活を中心に同じマークの簡単なものから履修する・・・というように入れ替えがしやすく、子どもにも大変分かりやすい表示となっております。

②「生活の課題と実践」

- ・次は、学習指導要領に新しく入った「生活の課題と実践」という内容についてです。学習した事を実生活で活用するために、2学年間で一つ又は二つ、自分で課題を設定して家庭や地域で実践するという学習です。
- ・東京書籍は「生活を変えるチャンス」と題して、5ページに5つの課題例をあげています。1手縫いで作る弟の小物入れ、2年末掃除大作戦、3家族の枕カバー、4わが家のおせち作りに挑戦 5感謝を伝えるパーティーを開こう・・・というように、学んだことを生かして家庭生活をよりよくしようとする例が多く紹介されており、家庭の生活改善に直結しやすいのが特徴です。
- ・開隆堂は、「レッツトライ生活の課題と実践」と題して、4ページ、3つの課題例をあげております。
 - 1 私の仕事スペシャルデイ、
 - 2 〇〇小の生活バージョンアップ、
 - 3 お世話になった方に日頃のお礼を伝えよう・・・というように、学校や地域に広げた課題例が紹介されているのが特徴です。

(2) 岐阜県教育ビジョン：ICTの活用

- ・次は別の着眼点として、第3次教育ビジョンにも示されたICTの活用、ここでは動画コンテンツについて報告します。
- ・QRコードの読み込みにより、家庭でも利用できる動画コンテンツは、両者の教科書に用意されております。
- ・東京書籍のコンテンツ数は14、開隆堂は様々なページの右肩にQRコードがあり、コンテンツの総数は100を超えます。
- ・数については先の通りですが、動画コンテンツは、児童が基礎的な技能を習得をするのに分かりやすく、教師には働き方改革にもつながる有効なツールの一つですので、調理実習の指定素材である「いも」の皮むきで映像の内容を調査しました。
- ・東京書籍の「じゃがいものかわむき」は、芽のとり方を含め、音声ガイド付きの詳しい説明と字幕の説明がありました。
- ・開隆堂の「じゃがいものかわむき」は、音声ガイドや芽の取り方の映像及び字幕の説明はありませんでした。

(3) 大きさと体裁

- ・最後に教科書の大きさと体裁について報告します。
- ・東京書籍は、今回の改訂からA4サイズになっており、開隆堂より14ページ、重量は50g多くなっております。
- ・A4サイズの利点は、例えば、青菜とジャガイモのゆで方の違いを学ぶページにおいて、おひたしとゆでいもの調理手順を上下に並べて、このように横流れに見通せること等が挙げられます。
- ・比較として、開隆堂の同じ内容ページはこのようなになっております。
- ・戻りまして東京書籍の巻末には、「いつも確かめよう」のコーナーがあり、安全への構え、調理や製作の技能の基本などがわかりやすく、豊富に掲載されているため、基本的な技能の習得や家庭での実践に、児童の大きな助けとなります。
- ・開隆堂は、これまでと同様サイズで軽量であることから、持ち帰りの負担が少なくなります。
- ・開隆堂の巻末には、ハサミと包丁の持ち方を写真で示してあり、野菜の切り方は裏表紙に乗せてあります。また「生活の中のプログラミング」に触れ、今日的な課題が意識されております。

- ・以上の調査結果の比較を申し上げます。
- ①はじめに、学習指導要領の目指す資質・能力の育成という視点では、両者ともよく配慮されていますが、ガイダンスのページ、新設内容の参考資料等を比較した結果、東京書籍は、経験の少ない教員でも指導しやすく、児童が見通しをもって学び家庭実践もしやすいように、よりよく配慮されています。
- ②次に岐阜県の教育ビジョンの重点にあるICTの活用の視点からは、動画コンテンツの数は開隆堂がより多くの数を用意されている一方、いもの皮むき、などの動画については東京書籍のものがより詳細で効果的です。
- ③大きさや体裁の視点からは、開隆堂の方が軽くて持ち運びの負担が少なく、巻末にプログラミング関連資料がある等の利点に対して、東京書籍は教科書がやや大きい分、作業工程の見やすいページや、技能の習得・活用に生かせる巻末資料が豊富であるという利点があります。
- ④最後に2年間で学習する題材の配列は、両者とも学習指導要領の示す内容を網羅し、ストーリー性のある構成となっておりますが、複式AB年度方式を採用する場合は、東京書籍の配列とその示しの方が、カリキュラムマネジメント上、より便利です。
- ・これらの比較検討の結果、小規模校を抱える美濃地区の学校規模の実態や、生活経験の少ない児童の実態、指導経験の少ない教員増加の現状にあつては、東京書籍の物がよく配慮されているという捉えをしました。
- ・なお、教科書展示会においては、内容について、東京書籍は各題材に実践例があり具体的なイメージを持ちやすい。構成について、東京書籍は、学習の進め方がより分かりやすい、見易さについては、東京書籍の大きさが良いというご意見を頂戴しております。
- ・以上で報告を終わります。ありがとうございました。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・東京書籍の方がいろいろな観点から適しているというお話がありましたが、表紙をめくったところを見ると、教科書がどういうコンセプトをもっているのかが分かり、東京書籍は、「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」、開隆堂は「家庭科では実際の生活に生かせるようになることをめざしていきます」とコンセプトが明らかに違うことが分かる。やっぱり家庭科の教科の本質を考えたときに、生かせるだけでなく、よりよく変えていくというコンセプトで東京書籍の教科書は構成されている。子どもの自己指導能力、自己管理能力の視点から、2者を比較した時どのように捉えてみえるか教えていただきたい。

【家庭科答申者】

- ・どちらの教科書も主体的に自分の生活を作っていくという点で、知識や技能を習得するだけではなく、考えようとか深めようとかやってみようとか話し合おうというコーナーがいろいろなページにあると思います。その中でも東京書籍の方が例えば75ページの「考えよう、自分の生活を見つめて改善していこう」というところですが、考えようのところにノートのようなスペースが設けてあったり、次のページのやってみようの後に使えるための素材などがあるので、子どもたちも教員も、ただやってみよう、考えようと投げかけるだけではなくて、より具体的に考えたり、やってみたり、深めたりすることができる道筋までが示されているのが東京書籍の方が多いと思います。開隆堂もゼロという

わけではないですが、調べようとか、右肩左肩に話し合おうとか、投げかけはあるのですが、その次のステップというものが東京書籍の方がたくさん示されていて、より実践的な生活を改善する力につながっていくと思います。

【委員】

- ・今ランドセルはA4規格に変わってきているのですか。会社でもBサイズは使わないうらい時代が変わってきている。実際今子どもたちが使っているランドセルでA4は入るのですか。

【家庭科答申者】

- ・すべての児童のランドセルをチェックしている訳ではございませんが、今もA4サイズのノートや教科書を持ち帰ることができない児童はいないと思います。いちばん大きい子は6年生で、低学年にいたっては今風のランドセルで大きくなっていますし、A4が入らないことはないのではないかと考えております。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、生活科の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【生活科答申者】

生活科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、調査研究を行いました。

まず生活科の学習指導要領の目標について、説明します。

現行の学習指導要領では「自立への基礎を養う」ことを目標としていることに対して、新しい指導要領では「自立し生活を豊かにしていくこと、またそのために3つの資質・能力（知識及び技能の基礎／思考力・判断力・表現力等の基礎／学びに向かう力・人間性等）を育成することをめざすこと」を重点としています。

この生活科の目標を踏まえ、まず、8者の教科書について調査研究を行いました。最初にそれぞれの特徴について説明いたします。

「東京書籍」についてです。

願いを持って活動に臨み、学んだことを表現する単元毎の一連の活動の流れが、イラストや吹き出しを使って「学びのプロセス」として示されています。教科等の関連を図る横のつながりと幼児期から中学年への縦のつながりを示す例示が豊富にあります。

「大日本図書」についてです。

白黒のページがあり「どんな色やどんなにおい？」と問いかけ、子どもの感性に訴え、「すごい」「おもしろそう」といった子どもの願いや思いを大切にすることで、「主体的な学び」を達成させようという特徴があります。

「学校図書」についてです。

全ての単元で、課題を持つ「どきどき」、解決する「いきいき」、深める「ふむふむ」、発表する「に

ここにこの4段階で学びを構成しています。また、吹き出しの言葉等で、子ども同士の対話やかかわりを重視しています。

「教育出版」についてです。

生活科で育成する3つの資質・能力を、「気付く」「自分でできる」「考える」「伝える」「挑戦する」「自信を持つ」のより具体的な6つの力に細分化し、スモールステップでの学びができます。巻末の「学びのポケット」は、各教科の知識や技能とのつながりを意識することができます。

「光村図書」についてです。

単元の学習過程を思いや願いをもつ・見通しをもつ過程を「ホップ」、やってみる・考える・表す過程を「ステップ」、振り返る・伝え合う過程を「ジャンプ」の3段階とし、学習の流れやねらいが明確になっています。

「啓林館」についてです。

思いや願いを持つを「わくわく」、活動や体験を「いきいき」、伝え合う活動や振り返りを「ぐんぐん」の3つの段階に分けた構成になっています。単元の導入に「わくわくボックス」を位置づけ、子どもの「やってみよう」をという願いを大切にしています。

「日本文教出版」についてです。

見開きごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた「学習のめあて」をわかりやすい言葉で説明しています。漠然とした活動のイメージではなく、今日の授業では何に注目し、どんな能力がつくとよいか分かりやすいです。

「信州教育出版」についてです。

見本が送付されていないため、調査することができませんでした。

次に美濃地区における生活科指導の課題について、お話しします。

課題の1つ目は、生活科の学習が幼児期の教育過程からのスムーズな接続や中学年以降の学びへの発展、また他の教科・領域とのつながりに弱さがあることです。

特に今回の指導要領の改訂では、「スタートカリキュラム」の充実が示されています。幼児期における遊びを通じた学びから、生活科の主体的に自己を発揮しながらより自覚的な学びへと円滑に移行することが述べられています。また、他の国語や算数、音楽や図工などの合科的・関連的な学び、中学年以降の社会科や理科の発展的な学びなど、生活科とのつながりに配慮することが指導要領に述べられています。

これらの学びのつながりを重視することにより、子どもたちの多様な見方や考え方、さらには多面的な考えが身に付いていくと考えます。このつながりの充実が、生活科の指導目標である「自立して生活を豊かにすること」ができると考えます。

2つ目の課題は、「表現力の育成」です。美濃地区の各小学校では、学んだことをまとめたり振り返ったりする活動や発表会を行うことを通して表現力の育成に努めています。気付いたことや周りの人への働きかけを書いたり伝え合ったりして、表現できるようにしています。ただ、その内容の高まりや深まりが弱く、表現力の育成が課題といえます。そこで、子どもの多様な気付きを引き出し、その気付きが次の願いや課題へと広がり、学びが連続するようになり、相手をより意識した表現へと高まったりしていくとよいと考えています。

以上の観点からすると、8者のうち「教育出版」と「東京書籍」の2者の教科書は、他者と比べて、スタートカリキュラムの内容や他教科との関連、中学年以降への学びのつながりが充実してい

ます。また、観察カードや発表会の行い方を具体的に提示し、学習内容や目指す姿をイメージしやすいように工夫されています。したがって、美濃地区の小学校の生活科の教科書として適しているものと考え、この2者について詳細に調査研究をしました。

これより、2者について先ほど述べた美濃地区の生活科の課題に沿って、詳しく説明します。

1点目は、「生活科の学習が幼児期の教育過程からのスムーズな接続や中学年以降の学びへの発展、また他の教科・領域とのつながり」についてです。

まず、「スタートカリキュラム」について説明します。

「教育出版」では、絵本6ページ分の「なかよしのき」による導入に特徴があります。幼児期に絵で想像を広げた経験を基にして、それを生活科の学びへとつなげていくという意図が感じられます。また、それ以降のページでも幼児期の終わりまでに育てて欲しい「10の姿」をイラストで下段に示し、それに対応する小学校での活動の様子を写真で示しています。幼児期に育んだ資質・能力を小学校生活で発揮する姿へとつなげています。

「東京書籍」は、下段を少しカットした、少し小さめのサイズの13ページで編集されています。

「スタートカリキュラム」を子どもが視覚的にも意識できるように工夫されています。また「幼児期に育った力を生かし、学校を探検する」活動から始まり「友達との関わりを深める」「他教科へ学びを広げる」「新たな『学び』への思いをもつ」という大きく4つの構成をとっています。幼児期の学びから生活科への学び、そして各教科の学びへと系統的に広がっていくことを意識させる配慮があります。また、イラストの吹き出しが豊富で、子どもの願いや気付きを促す工夫がされています。入学当初の子ども達は、吹き出しの言葉を頼りにしながら学ぶことができ、安心して学びに向かうことができます。

次に「合科的・関連的な学び」や「中学年以降の発展的な学び」へのつながりについて説明します。

「教育出版」では、単元の初めの見開きのページにインデックスがあります。このインデックスは巻末の参照資料「学びのポケット」と連動しています。「学びのポケット」には、他教科のどんな知識や技能が生活科の学びに生かすことができるのかが、分かりやすく整理してあります。また、コラム発展「〇〇へのまど」という発展学習のページが、上には1ページ、下には5ページの合計6ページがあります。中学年以降の社会科や理科への学びのつながりが明確となり、学びのつながりを子どもはつかむことができます。

「東京書籍」は、ページの右側に他教科の学習成果を生かした効果的な活動例が掲載されています。その際に「まなびい」というキャラクターが吹き出しで、他教科との学びを促しています。また、上巻巻末には、各季節で象徴的に見られる主な植物や昆虫などを実物大で描いた「ポケット図鑑」が設けられ、理科的な学びとのつながりが配慮されています。また、身近な地域を学ぶでは、カラー刷りの部分を学校周辺から学校の校区、町全体へと徐々に広げています。これは、3年生以上の社会科や総合的な学習の時間で地域を学ぶ際の「空間認識の広がり」とつながっていて、子どもが学ぶ対象の広がりイメージしやすくとても効果的な例示となっています。下巻巻末にも、生活科で活用する習慣や技能や学び方の「便利手帳」があって、理科的や社会的な思考へとつなげる特徴があります。

どちらの教科書も、幼児教育や中学年以降の学びとの接続や国語や算数の教科との合科・横断的な学びが円滑かつ効果的に行えるようになっていきます。「教育出版」は、單元ごとでの他とのつな

がりを巻末の資料によって意識できるようになっています。また、「東京書籍」は巻末の資料を図鑑として利用したり、他教科との学びの技能や学び方が随所にあったりするので、接続やつながりをとても円滑かつタイムリーに意識することができます。

2点目は「表現力の育成」についてです。

「教育出版」では、単元の終わりに「なにをかんだかな」と「つたえたいな」の2つのコーナーが位置付いています。「なにをかんだかな」では単元での気づきを1枚の観察カードにまとめた時の例が掲載されています。また、「つたえたいな」では、「いぐら」というキャラクターのつぶやきの欄に書き込むことと単元毎に学んだことを子ども自身が端的につぶやくまとめのコーナーが設けられています。この2つのコーナーが単元の終末に必ず位置付けられ、単元毎に問い返すことが継続されて行われます。気づきや成長をまとめたり振り返ったりすることが習慣化し、言語活動を充実することができます。また、年間を通してそれらを並べて比較することによって、気づきの質の高まりを実感することができます。

「東京書籍」は、子どもの気づきを促す工夫が多くあります。たとえば、1年生の生活科の内容に「季節によって生活の様子が変わること気付く学習」があります。校外へ学習に出かける前に、校庭と公園の2種類の見開きのページの絵を通して季節による違いに気付くようになっています。観察カードについては、1ページ大の子ども達を書く観察カードにより近いサイズのものが掲載されています。吹き出しで、書く際に気を付けることやどんな内容を書くときよいのかをアドバイスされています。観察のポイントとして「みつける」「くらべる」「たとえる」との3つの観点を示し、さらにそれらについて赤のアンダーラインで、どんな観点で観察するとよいのかが示されています。入学当初の1年生にとっては、観察の際の視点が明らかになっているので、気づきを促したり気づきの質を高めたりするのに、とても役立ちます。この視点は、理科的な思考や表現につながり、とても有効な支援です。学んだことを伝える、まとめる際には、学びを深める対話を通じて、仲間とのかかわりを大切し、意見を交流しあうことによって、気づきの質を高める方法が明らかになっています。さらに記号や色分けによるまとめ方があること、ポスターやパンフレット、新聞形式といろんなまとめ方の方法があることが示されています。発表会での発表の仕方についても、表を指し示しながら説明したりICTを活用したり実物を見せたりしながらなど様々表現方法があることが見開きのページで例示されています。これは、子どもたちの表現のとても参考となります。

どちらの教科書も、子どもが振り返りで意欲的に表現できるような工夫がされています。また交流会や発表会の様々な表現方法の例が紹介され、言語活動の充実が図られています。「教育出版」は、単元の終末に必ず「なにをかんだかな?」「つたえたいな」を行い、継続的かつ系統的に表現力を高めることができます。「東京書籍」は、活動と表現が繰り返し行われることによって深まる学びの具体的な場面やその際の児童のつぶやき、児童の具体的な活動例などがより豊富に示され、気づきが生まれたり高まったりしやすい工夫が随所にあります。また「みつける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」などの多様な観点が示されています。仲間との交流によって気づきの質を高める工夫もあります。東京書籍は、気づきを高め、表現力を豊かにし、自己の成長をより自覚することができると思います。

以上が調査研究となります。

なお、教科書展示会において、特に意見等はありませんでした。

この調査研究により、「東京書籍」の教科書が、よく配慮されていると考えます。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・両者を比べて大きく違うと感じるところは、東書の方は季節感を感じながら学ぶようになっている構成が非常に顕著に表れている。例えばこれからの季節夏でいうと、東書は40ページ夏はやってきたというところから、観察して、公園で遊んで、水遊びをする。教育出版は、夏のページはあるのですが、具体的にはのっていない。やることは学校で決めればよいことであって、東書はよいと思うが、こういうことをやらなければならないだとか、暑い公園で遊ぶことは危険もあるだとか、という点についてどう考えるか。

【生活科答申者】

- ・東書の方につきましては、夏がやってきた、66ページ楽しい秋いっぱい、92ページの冬を楽しもうというところで、どちらの教科書も春夏秋冬を扱うことで季節感を味わうようになっているのですが、例えば東書の秋の木の実を見付けることで、それを使った道具遊び、それを下学年に伝えたり、保護者に伝えたりすることで、子どもの表現力をさらに鍛えようとするような意図があります。それでもそれぞれの季節を感じながら、それぞれの季節でやらなければならないことの参考例があることで、子どもの気付きによりつながるのではないかと考えております。

【委員】

- ・すると学校の現場では、限られた時間でこれはきちんとできているということでしょうか。

【生活科答申者】

- ・はい。それぞれの季節で行うことを明らかにして取り組んでいます。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、東京書籍を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、外国語の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【外国語答申者】

- ・小学校英語では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、調査研究を行いました。

来年度から教科となる小学校英語では、中学校と違い、専科でない担任が中心となって指導に当たる場合が多いことと、これまで外国語活動で行ってきた聞くことや話すことを中心とした活動に加え、読むこと・書くことの指導が加わることが課題となると考えられます。

これらの課題と関連がある着眼点1「これまでの外国語活動の経験をふまえ、児童が興味をもって主体的・協働的に学習に取り組めるとともに、専科ではない担任が指導する際にも無理なく指導できること」、着眼点2『聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くこと』の5領域のバランスがとれており、特に新しく指導事項に含まれる『読むこと』と『書くこと』の学習に無理が

ないこと」の2点から説明をします。

- ・今回、「小学校英語」の調査研究を行ったのは、7者です。

着眼点1「これまでの外国語活動の経験をふまえ、児童が興味をもって主体的・協働的に学習に取り組めるとともに、専科ではない担任が指導する際にも無理なく指導できること」、着眼点2「5領域のバランスがとれており、特に新しく指導事項に含まれる『読むこと』や『書くこと』の学習に無理がないこと」の2点について、7者すべての調査結果を説明します。

- ①「東京書籍」は、学びやすく指導しやすいよう、1ページ1時間扱いの見開き構成となっており、活動の見通しがもちやすくなっています。内容は日常生活に密着しており、多くの児童が自分の学校生活と重ね合わせて学習への関心・意欲を高めながら学習に取り組む事ができます。また、すべての児童にとって読みやすく書きやすい新ユニバーサルデザインの書体が入り入れられており、音声中心のユニットの授業が1時間終わるごとに、「わたしのせりふ」として1文ずつ、児童が自分で選んだ言葉を書きためる構成となっています。
- ②「開隆堂出版」は、冒頭で出口を見通せるリスニング活動があり、単元の出口に向けてターゲットとなる英語表現を使った活動が段階的に繰り返し設定されており、無理のない構成となっています。活動にも必然性をもたせ、児童が楽しんで活動できるようになっています。また、「文字に慣れよう」のコーナーが巻末に設けられ、「音と文字の関係」や「アルファベット、文の書き方」などを段階的かつ系統的に学習することで無理なく読み書きができるように配慮されています。
- ③「学校図書」は、1時間の流れが分かりやすく、単元の最初に目標と学習の進め方が位置付けています。音声によるインプットと繰り返しと気付きを大切にしており、レッスンのシーンや身に付けさせたい目標表現を繰り返して聞くような構成になっています。また、4技能5領域を示すアイコンマークがついています。Sounds & Lettersのコーナーで文字の読みを何度も繰り返したり、年間10回位置付けてあるAlphabet Cornerでアルファベットの読み書きを繰り返したりするなど、読み・書きも繰り返すことで身に付けるように配慮されています。
- ④「三省堂」は、「学びの見通しを立てる」→「語彙や表現を増やす」→「実際の場面で表現する」という学びのプロセスが大切にされており、自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動を柱としています。各単元はパターン化され、学びやすく指導しやすい構成となっています。また、読ませる文章は文字が大きくなっているなどの配慮があり、既習の表現を繰り返し聞いたり話したりする、音声で学んだことを読んだり書いたりする、学んだ語彙を実際に使う活動を行うなど、スパイラルに言葉の力が育成されるように構成されています。
- ⑤「教育出版」は、映像を見ながら音声を聞く冒頭の見開きは各単元の目標活動へとつながる内容となっており、学習の見通しをもって学べます。児童が楽しめる活動も多様で、付録についているカードやシールなどの教材も豊富です。また、単元の前半に「聞く」活動を多く取り入れ、音声による豊富なインプットにより5領域の力が段階的に育めるような配慮が見られます。
- ⑥「光村図書出版」は、学習の手順が分かる単元構成となっており、単元全体を見通すことができ、授業をスムーズに進めることができます。楽しんで活動できるゲーム的な要素を取り入れたり必然性をもたせたりした活動が多く、児童は楽しみながら主体的に活動に参加できます。聞く活動から始まり、話す活動を経て、徐々に読む活動につなげるなど、無理のない流れで学習が進んでいます。また、読み書きの学習のために、音と文字の学習がスモールステップで提示されています。
- ⑦「新興出版社啓林館」は、各単元が3つのパートから構成されており、指導内容がひと目で分かるた

め、指導しやすくなっています。単元の扉には全体の目当てが、各パートにはそのパートの目当てが明示され、児童にも学習目標が分かるようになっていきます。また、チャンツなどを通して何度も聞いたり発話したりするなど、音声からのインプットを多く取り入れ、各ユニット末には「読む」「書く」練習の場「Let's Read (and Write)」を設定しています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。

「専科でない担任が指導に当たることが多く、新しく読むこと・書くことの指導が加わる」ことが教科化に当たっての課題となりそうな小学校英語では、学習の見通しをもち、児童が興味をもって主体的、協働的に楽しみながら英語を身に付けることができる学びが重要となります。

こうした観点から考えると、7者のうち「光村図書」と「三省堂」の2者の教科書は、単元の見通しをもって学習に向かうことができ、各単元での活動が児童の興味を引くものであったり必然性のあるものであったりし、児童が楽しみながら主体的に学習に向かえると考えました。また、両者とも新しい指導事項である「読むこと」や「書くこと」が無理なく段階的に設定されており、より美濃地区の実態に合っていると考えました。

- ・続いて、この2者について、先ほどの2つの着眼点から比較します。

まず1つ目の観点である「これまでの外国語活動の経験をふまえ、児童が興味をもって主体的・協働的に学習に取り組めるとともに、専科ではない担任が指導する際にも無理なく指導できること」について比較した結果を説明します。

- ・先ほどお話ししましたように、両教科書とも、単元の見通しをもって学習に取り組めるような構成になっています。
- ・「三省堂」は、HOP～STEP～JUMP で1ユニット、各学年に3ユニット、2学年合計6ユニットで教科書が構成されています。HOP で児童はそれぞれのユニットで目指す姿を把握し、STEP で語彙や表現を増やし、JUMP で実際の場面で表現するという学習の流れとなっており、目標・見通し・ふりかえりという学びのプロセスが大切にされています。また、小単元の基本的な学習展開がパターン化されており、見通しをもって学びやすく指導しやすい構成となるよう配慮されています。
- ・「光村図書」は9つのユニットから教科書が構成されており、それぞれのユニットは HOP!→STEP1→STEP2→JUMP! という流れで学習が進みます。ユニットはじめの HOP! では「学習のめあて」が Goal として示され、ユニット最後の JUMP! では「ふりかえろう」として3つの観点から学習をふりかえることができ、各ユニットで「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どう学ぶか」を意識して学習できるようになっています。HOP!、STEP1 STEP2、JUMP の順に、その時間の目標が具体的に示されており、見通しをもって指導しやすいよう、よく配慮されています。
- ・また、取り扱われている具体的な活動については、「三省堂」は、身近で簡単な事柄に関する活動を通して、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを図る力を養うことを目指しています。取り扱う題材も、児童の知的欲求に合致するものが選択されており、特に実際の場面で表現する JUMP のコーナーでは、グループで活動し、主体的・協働的に学び合えるような配慮がされています。
- ・「光村図書」は、外国語活動で慣れ親しんできたゲーム的な要素のある活動や、例えば、好きな色や果物を尋ね合う活動では、集めた情報からクラスで人気のある色や果物を推測するといったコミュニケーションギャップを取り入れた必然性のある活動を取り入れています。6年生後半では、自然に楽しみながらこれまで身に付けてきた様々な表現を使う活動が位置付けられています。また、Let's try. や You can do it! では、グループ内でやり取りをしたり、グループで力を合わせて発表をしたりする

よう、協働的な活動がよく配慮されています。

- ・次に、2つ目の観点「5領域のバランスがとれており、特に新しく指導事項に含まれる『読むこと』と『書くこと』の学習に無理がないこと」について比較した結果を説明します。
- ・「三省堂」では、単語や表現を、使いながら身に付けることを大切にしており、気付きを促すインプットから、徐々にアウトプットへと向かっています。Sound Chant ではリズムに合わせて語彙を導入しており、同じ音をもつ語を集めて、文字と音のつながりへの気付きを促しています。また、Enjoy Reading では、ストーリーを聞きながら文字に親しむことができるようになっていきます。書くことについては、文字をなぞったり見て書いたりする形になっており、英語を書くときのポイントにも触れるなど、無理なく書く活動に配慮されています。
- ・「光村図書」も、十分インプットした後にアウトプットする流れを大切にしています。特に読み書きの学習は、チャンツやリスニング、対話活動で十分慣れ親しんだ後に段階を追って丁寧に書くことにつなげるような工夫がされています。例えば、5年生の Unit4 以降には Sounds and Letters のコーナーが設けられ、楽しみながらアルファベットの音と文字の関係に少しずつ気付けるようになっていたり、Fun Time の「文字遊び」はゲーム感覚で文字に慣れる活動が考えられていたりします。特に6年生終盤の Fun Time では、活動する中で英語の語順に自然に気付くような工夫がなされています。このように、5年生から6年生まで段階的、系統的な書くことの積み重ねがあり、児童が抵抗なく書く活動に取り組めるような配慮が大変よくなされています。
- ・このように調査結果から、「光村図書」がよく地区の実態に合っていると考えました。以上が調査研究となります。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・大切なことはこれまで行っていた外国語活動を引き継いでいくということと、中学校への引き継ぎということで、急激に難しくなってもいけないし、それが大変難しいのですが。まず見易さでいうと、光村の方が見やすい、開隆堂の方が少しごちゃごちゃしている感じがします。文章のまとまりも光村の方がいいなと感じ、私も光村がよいと思います。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、光村図書を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。続きまして、道徳の答申を行います。準備をしますので、しばらくお待ちください。

【道徳答申者】

- ・今回、「特別の教科道徳」の調査研究を行ったのは、8者です。最初に8者の教科書の特徴について、説明いたします。
- ・「東京書籍」についてです。良質な教材が多く、主人公が葛藤や困難を乗り越えていく様子が分かり

やすく描かれており、児童が毎時間、読み物教材を中心に学習することで、発達段階に応じて確実に道徳性を高めていくことができるような工夫がなされています。

- ・「学校図書」についてです。全学年で「よみもの」と「実効性のある力の育成」を意図した分冊に分かれています。分冊では、自らを振り返る問いを位置付け、自分自身の生き方やこれまでの経験・体験と結び付けて考えられるように工夫されています。
- ・「教育出版」についてです。全学年で読みもの教材に「かんがえよう」と「ふかめよう」が位置付けられ、考えたことを「ふかめよう」で、実際にどのように行動に移していったらよいかを考えさせることが意図されています。
- ・「光村（みつむら）図書」についてです。すべての教材に「考えよう・話し合おう」「つなげよう」があり、展開例やまなび方が示されており、主体的・対話的な学びを深める工夫があるとともに、実感を伴って道徳的価値を捉えさせる配慮がなされています。
- ・「日本文教出版」についてです。全学年で読みもの教材に、「考えてみよう」と「見つめよう 生かそう」が位置付けられ、考えたことを、実際にどのように行動に移していったらよいか見つめさせる工夫がなされています。
- ・「光文（こうぶん）書院」についてです。全学年各教材の最初にリード文があり、教材の下段の児童が考えるヒントとなる吹き出しが、「考え議論する」キーワードとなっています。また、各教材末には、道徳的価値についてまとめる問いと生活に広げる問いが位置付き、「実効性のある力の育成」が意図されています。
- ・「学研」についてです。「つなげよう…実践力」「深めよう…議論」「広げよう…内容の補足」「やってみよう…役割演技」が約半数の教材に付属しており、読み物教材で学んだことをもとに、多様な学習ができる工夫がなされています。
- ・「あかつき」についてです。全学年で「よみもの」と「分冊」に分かれています。分冊は、内容項目ごとに構成されており、自分がどのように考えてきたのかを内容項目ごとに振り返ることができるように工夫されています。
- ・今回の調査研究で大切にしたい観点は、これから述べる美濃地区の実態に即した3点です。
- ・1点目です。これまでの美濃地区の各小学校が大切にしてきた「問題解決的な学習」「考え、議論する道徳」を実践することができる教科書であるかどうか。
- ・2点目です。これまでの美濃地区の小学校の道徳の授業は、「児童の行動力に結びつきにくい」という弱さがありました。「実効性のある力の育成」を図ることのできる教科書であるかどうか。
- ・3点目です。美濃地区に配置された初任者は、昨年度22名、本年度39名です。近年、教員の年齢層が若くなる傾向にあります。若い教員が授業をやりやすい教科書であるかどうか。です。
- ・以上の3点の観点からすると、8者のうち「東京書籍」と「光文（こうぶん）書院」の2者が、美濃地区に適するものと考え、この2者の教科書を、詳細に調査研究いたしました。
- ・最初に、「東京書籍」についてです。東京書籍では、児童が毎時間、読み物教材を中心に学習することで、発達段階に応じて確実に道徳性を高めていくことができるような工夫がなされています。

【資料1】低学年の1時間分のページは、本文と挿絵しかありません。児童が主人公や登場人物に入り込み、主人公等の気持ちを考えることを通して、道徳的価値をつかむことを大切にしたいと考えています。

2年生の「大すきなフルーツポンチ」で具体的に説明します。【資料2①】ページを開いてまず児童

の目に飛び込んでくるのは、おいしそうなるフルーツポンチの挿絵です。その絵を見ただけで、児童は大好きなフルーツポンチが配られるのを心待ちにしている「教材の中の児童」の気持ちに共感することができます。また、【資料2②】教材名の下に「はじめに」というコーナーがあり、「みんながうれしくなるのは、どのようにしたときでしょう。」と投げかけられています。児童は「みんながうれしく感じるためには」という視点をもって教材に入ることができます。

【資料3①】中・高学年になると、「はじめに」のコーナーがなくなり、【資料3②】本文の後に「考えよう①」「考えよう②」の2つのコーナーが常設されています。

【資料4①】5年生の「見えた答案」では、「考えよう①」で、となりの席のよし子の答案が見えてしまった後に、答えを書き込んだ主人公花子について、『花子は、なぜ「こんなことは、もう二度としてはいけない。」と思ったのでしょうか。』と投げかけています。「考えよう①」は、主人公の気持ちを考え、議論するように意図されています。また、【資料4②】「考えよう②」では、「今までに正直に行動してよかったと思ったことがありますか。それは、どんなことでしたか。」と投げかけ、自分を振り返ったり、これからの自分を考えたりする「実効性のある力の育成」が意図されています。このように、東京書籍は読み物教材を中心に、学年の発達段階に合わせて授業を展開することに重点が置かれています。質の高い議論や「実効性のある力」を育成するためには、児童の発言を的確に問い返したり、役割演技をさせたりして、授業を深めていく教員の力量が大切になります。

次に、「光文書院」についてです。【資料5①】光文書院では、全学年各教材の最初にリード文があり、本時のねらいに迫る問いが位置付いています。さらに、【資料5②】資料下段に児童が考えるヒントとなる吹き出しの言葉が、教材によって2つ～4つほど書かれ、【資料5③】文末には本時で学んだことを通して自分の生き方についてまとめを促す問いかけや、【資料5④】自分が取り組んでみたいことなどを考えさせる問いかけがある構成になっています。

6年生の『いらなくなったきまり』で具体的に説明します。【資料6①】「きまりがなくても、みんなが気持ちよく生活するのに必要なことは何か」を考える教材です。そこで、リード文では「クラスのみんなが気持ちよく生活するために、大切なことは何か」と投げかけ、児童に考える視点を与えています。【資料7①】展開中段の吹き出しでは、「明子さんが本の整理を（自主的に）始めたのはどうしてか。」と主人公の気持ちをクラスで議論し合うことで、【資料7②】「みんなが気持ちよく生活するために大切なこと」を導き出し、本時明らかにしたい道徳的価値に達します。そして、この時間に学習したことをまとめます。その上で、【資料7③】「あなたができることを考え、実行してみよう。」と「実効性のある力の育成」へとつないでいます。ベテラン教員はもちろんのこと、経験が浅い若手教員にも実践しやすい構成になっています。

また、光文書院では、資料の中に直接的な答えがないオープンエンドの教材を用いて、「どうしたらよいか」と児童が主体的に議論できる工夫があります。

3年生の『心の優先席』では、混みあう電車に乗り込んできた80代の老人に、車内の人々が席をゆずろうか、どうしようかと、そわそわしている場面を見た3人の小学生がいます。その3人が、【資料8①】「遠くでも優先席に座っている人がゆずるべき」、【資料8②】「近い席に座っている人がゆずるべき」、【資料8③】「ゆずりたいと思う人がゆずるべき」と話し合っています。【資料8④】そして、会話を聞いていた主人公は、どうしたらよいか考え込んでしまいます。

大切なことは、「ゆずるかゆずらないか」ではなく、「ゆずるという行為の素晴らしさを学ぶだけ」でもなく、ゆずる理由を考え、3人の考えを比べて議論することで児童自身が自分の道徳性に気付くこ

とです。様々な立場の考え方に触れながら議論し合うことで、道徳的な価値について、多面的・多角的に思考し、教材のもつ本質的な価値に迫ることができると考えます。

- ・以上から、「ベテラン教員はもちろんのこと、経験の浅い若手教員にも実践しやすい構成になっていること」「読み物教材やオープンエンドの教材などの様々な教材があること」などの点で、「光文書院」の教科書が、美濃地区の実態には適していると考えます。

これで終わります。

【司会者】

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。採択委員の皆様、何かご質問はございますか。

【委員】

- ・光文書院の教科書を読んで気になったことがあり、1年生の教科書の115ページにある「ぎんのしずく」でどこのお母さんにも銀のしずくを落としましたとあるが、母親のいない子への配慮についてはどう考えるか。

【道徳答申者】

- ・そこまで十分吟味ができていないのですが、教材自身は非常に有名な家族愛を考える資料ですので、いろいろな会社が取り上げている現状です。

【委員】

- ・光文書院は現在岐阜県内では一番多く使われている教科書ですが、実践されている人の話を聞くと、指導書の使いやすさについて課題があると聞きます。今回の採択では指導書の調査研究は入っていないが、そういった情報が入っているのかどうか。文科省の方が、本質は自己を見つめるということで変わらないのだが、終わり方がオープンエンドであるような、決意表明的な行為を求める方向に走りがちになっていると言われています。光文書院の方は、「どうしたらよいか」という行為を求める内容が多く、東京書籍の方は自分を見つめる内容が多いと思われます。そういう点についてどう捉えてみえるか。

【道徳答申者】

- ・東京書籍は、読み物領域が中心で、最後に「あなたならどうしますか」「この主人公はその後どうしたでしょうか」と最後の3行くらいで今後の実行性、自分の生き方を見つめさせる工夫がなされています。自分も校内研等に呼ばれていくのですが、東京書籍の資料は良質で吟味もされているのですが、若い先生が多いという実態がある中で、読み物資料がほとんどの東京書籍の教科書を自分の力量でうまく扱うことが難しいところにきています。光文書院の方は確かにオープンエンドで「どうしますか」と行動を直接的に聞いたりすることがあるが、キーポイントとなる発問がついているので、そこを参考にしながら若い教員でも扱っていきけるし、力量のある教員も自分の切り取り方で扱っていきます。これからのことを考えると最適ではないかと考えました。指導書等、他地区の話も聞いていますが、それは一切考えておりません。美濃地区の実態に合っているかということを考えていただきます。

【委員】

- ・言われることはよく分かるのでよいが、教師が良質な資料で実践することができる技量を身に付けることも大切にしていきたい。

【道徳答申者】

- ・読み物教材だけで年間35時間行うことは、危惧するところがあります。光文書院の方は、読み物教材が中心ではあるが、それ以外の教材も含まれており、工夫がなされています。

【委員】

- ・子どもに夢を与えることについて、道徳で言うとどの範囲になるのか。将来の目標をもったり、仕事について憧れをもったりするのはどの分野になるのか教えてほしい。

【道徳答申者】

- ・夢自体は、教育全版を通して私たちは子どもたちが夢をもつことができるようやっていますのですが、道徳の教科書で言いますと、内容項目で夢にパシッと当てはまる場所はありません。道徳の教材自体が、主人公がイチロー、高橋尚子という登場人物の生き方に触れること自体が夢につながってくる、こうやって努力すればいいんだ、弱い心になった時に負けてはいけないんだということを学んでいくことが、子どもたちの夢を作っていくことにつながると考えます。そういう意味では教科書はよく編集されていると思います。

【委員】

- ・道徳の35時間は全てこの教科書を使わなければならないということではありませんね。知って見える範囲で差し替えている例があるかどうかと、2者ともに付録というのがあって、光文の方は付録に内容項目が記載されているため差し替えてもよいと思うが、東書の場合はそこが少し弱いと感じるが、そのあたりについて、どう考えてみえるか。

【道徳答申者】

- ・前回と比べて教科書の内容は変わっており、東京書籍は半分くらい変わっています。ですから、今の子どもたちに合うことを意図して選んであります。そういった意味では、光文は良質なものが残っていると感じます。光文の方は差し替えることに意図が置かれており、東京書籍の方は変えることに意図が置かれていると考えます。

【司会者】

それでは、ただいまの答申と、それを受けての質問・検討から、光文書院を採択することが望ましいという結論でよろしいでしょうか。よろしければ、拍手をもってご承認をいただきたいと思います。

【司会者】

拍手多数で、この件は承認されました。

【司会者】

これもちまして本日の議題を終了いたします。

最後になりましたが、8月31日までは、本協議会の日時、場所、委員の氏名、会の内容等について、一切公表や他言することのないよう、格段のご協力を重ねてお願い申し上げます。

これもちまして、令和元年度 第2回 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を終了します。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。